

(様式第 10)

鹿大病総 第 5 3 9 号  
平成 2 9

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人鹿児島大学  
前田 芳

鹿児島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21番24号
氏 名	国立大学法人鹿児島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

鹿児島大学病院
---------

3 所在の場所

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号	電話 (099) 275-5111
-------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科	②消化器内科
⑤神経内科	6血液内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	③循環器内科
	7内分泌内科
	4腎臓内科
	8代謝内科
	⑪リウマチ科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 <input checked="" type="checkbox"/> 1呼吸器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 2消化器外科      3乳腺外科      4心臓外科 5血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 6心臓血管外科      7内分泌外科 <input checked="" type="checkbox"/> 8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 1精神科 <input checked="" type="checkbox"/> 2小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 3整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 4脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 5皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> 6泌尿器科    7産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 8産科 <input checked="" type="checkbox"/> 9婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 10眼科 <input checked="" type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科 <input checked="" type="checkbox"/> 12放射線科    13放射線診断科 14放射線治療科 <input checked="" type="checkbox"/> 15麻酔科 <input checked="" type="checkbox"/> 16救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 <input checked="" type="checkbox"/> 1小児歯科 <input checked="" type="checkbox"/> 2矯正歯科 <input checked="" type="checkbox"/> 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 心療内科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	1床	13床	床	662床	716床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	216人	231人	389.0人	看護補助者	53人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	99人	20人	110.8人	理学療法士	16人	臨床検査技師	47人
薬 剤 師	49人	3人	52人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	4人
助 産 師	21人	1人	21.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	631人	42人	664.4人	臨床工学士	20人	医療社会事業従事者	12人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	14人	2人	16人	歯科技工士	5人	事務職員	167人
管理栄養士	6人	8人	14人	診療放射線技師	37人	その他の職員	38人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	33人	眼科専門医	15人
外科専門医	44人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	9人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	16人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	2人
		合 計	227人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 夏越祥次) 任命年月日 平成29年4月1日

- ・病院長補佐 (安全管理担当) (H26.4.1-H29.3.31)
- ・医療環境安全部 部長 (H26.4.1-H29.3.31)
- ・医療安全管理委員会 委員長 (H26.4.1-H29.3.31)
- ・リスクマネージャー連絡会議 議長 (H26.4.1-H29.3.31)
- ・医療環境安全部スタッフ会議 議長 (H26.4.1-H29.3.31)
- ・医療機器安全管理責任者 (H27.4.1-H29.3.31)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	538.7人	26.3人	565.0人
1日当たり平均外来患者数	864.2人	403.4人	1267.6人
1日当たり平均調剤数	1,172剤		
必要医師数	111人		
必要歯科医師数	8人		
必要薬剤師数	19人		
必要(准)看護師数	326人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要		
集中治療室	320m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	14床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 245m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 8台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 30m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 無					
化学検査室	304m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ディスク方式臨床化学自動分析装置、免疫比濁分析装置、免疫蛍光分析装置、免疫発光測定装置、蛋白分画電気泳動分析装置、グルコース分析装置、グリコヘモグロビン分析装置、血液計数装置、血液塗抹標本作製装置、フローサイトメータ			
細菌検査室	45m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養自動分析装置、遺伝子解析装置、嫌気培養装置、炭酸ガス培養装置、抗酸菌培養検査装置、免疫蛍光測定装置、微生物分類同定分析装置、微生物由来成分分析装置、微生物感受性分析装置			
病理検査室	39m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 密閉式自動固定包埋装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、滑走式マイクローム、自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色・ISH装置、凍結切片作製装置、集細胞遠心装置、顕微鏡、病理・細胞診検査業務支援システム			
病理解剖室	273m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ハイバート対応排気システム、排水蒸気滅菌処理システム			
研究室	8,026m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ガスクロマトグラフ、電子顕微鏡			
講義室	655m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	3室	収容定員	499人
図書室	1,980m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	8室	蔵書数	183,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	83.8%	逆紹介率	78.9%
算出根拠	A: 紹介患者の数		13,524人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,624人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		942人
	D: 初診の患者の数		17,258人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
綾部 貴典	宮崎大学 医学部附属病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
玉利 尚大	玉利法律事務所		法律に関する識見を有する者	無	1
三好 綾	NPO 法人 がんサポート かごしま		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 大学ホームページにおいて公表	



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	0人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	1人
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	17人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法	3人
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法	0人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0人
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	5人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモノロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモノロミド内服投与の維持療法	3人
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	2人
テモノロミド用量強化療法	0人
mFOLFOX6及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法	0人
<sup>131</sup> I-MIBGを用いた内照射療法	3人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法	0人
カペシタピン内服投与、シスプラチン静脈内投与及びドセタキセル腹腔内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	(患者申出療養)パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 S-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法は、標準治療であるS-1+CDDP併用療法を対照とした第III相試験において、腹膜播種陽性胃癌に対する有効性が示唆された新規治療法である。本研究は、患者申出療養制度下に、腹膜播種陽性または腹腔細胞診陽性の胃癌症例を対象として、本療法の安全性と有効性を評価することを目的とする。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	97
2	筋萎縮性側索硬化症	5	57	特発性拡張型心筋症	39
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	8
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	2	60	再生不良性貧血	27
6	パーキンソン病	56	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	0	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	65
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリイ・トウス病	3	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	93	66	IgA 腎症	14
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	14
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	67	68	黄色靱帯骨化症	8
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	23	69	後縦靱帯骨化症	74
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	8
16	クロー・深瀬症候群	2	71	特発性大腿骨頭壊死症	61
17	多系統萎縮症	7	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	40	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	44
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	5
21	ミトコンドリア病	27	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	43	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	56
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	154
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	19	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	5	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	113
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	27
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	38
32	自己食空胸性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	2
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	23
34	神経線維腫症	50	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	21	90	網膜色素変性症	70
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	14	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	19
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	0
40	高安動脈炎	30	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	53
42	結節性多発動脈炎	5	97	潰瘍性大腸炎	80
43	顕微鏡的多発血管炎	20	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	9	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	18	102	ルピンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	326	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	104	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	114	106	クリオピリン関連周期熱症候群	2
52	混合性結合組織病	40	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	20	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	5	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジドリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ベリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(三相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	2	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	2
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	2
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	3	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	9	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膿性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	5	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	0
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	2	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	11
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	2	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・退院支援加算
・歯科外来診療環境体制加算	・精神疾患診療体制加算
・歯科診療特別対応連携加算	・精神科急性期医師配置加算
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料1
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料1
・診療録管理体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料2
・医師事務作業補助体制加算1	・小児入院医療管理料2
・急性期看護補助体制加算	・短期滞在手術等基本料2
・看護職員夜間配置加算	
・看護補助加算	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・総合評価加算	
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	
・データ提出加算	

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病合併症管理料	・補聴器適合検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料1	・コンタクトレンズ検査料1
・がん患者指導管理料2	・内服・点滴誘発試験
・がん患者指導管理料3	・有床義歯咀嚼機能検査
・外来緩和ケア管理料	・画像診断管理加算2
・糖尿病透析予防指導管理料	・歯科画像診断管理加算1
・外来放射線照射診療料	・歯科画像診断管理加算2
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・薬剤管理指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料1	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料2	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・心臓MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・乳房MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・外来化学療法加算1
・検体検査管理加算(I)	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(IV)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・国際標準検査管理加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(I)
・胎児心エコー法	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・がん患者リハビリテーション料
・ヘッドアップティルト試験	・集団コミュニケーション療法料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・歯科口腔リハビリテーション料2

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・救急患者精神科継続支援料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・認知療法・認知行動療法1	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・医療保護入院等診療料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・補助人工心臓
・手術用顕微鏡加算	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	
・CAD/CAM冠	
・手術時歯根面レーザー応用加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・歯科技工加算1及び2	
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下肝切除術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・生体部分肝移植術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・同種死体腎移植術
・網膜再建術	・生体腎移植術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術、植込型骨導補聴器交換術及び人工中耳用材料	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・輸血管管理料II



## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	・
・病理診断管理加算2	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科矯正診断料	・
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	133
剖検の状況	剖検症例数 15例 / 剖検率 8.9%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
データマイニング技法を応用した医療の質とコストの適正化要因の発見手法に関する研究	熊本 一朗	病院長	700,000	補○ 委	日本学術振興会
サルコペニアにおけるレニン・アンジオテンシン系の作用およびメカニズムの解明	赤崎 雄一	心臓血管内科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
CFAEアブレーションを軸とした慢性心房細動の包括的新規治療法の開発	桶谷 直也	心臓血管内科	700,000	補○ 委	日本学術振興会
葉酸レセプターβ抗体を用いた分子イメージングの前臨床試験と新規診断法の開発	宮田 昌明	心臓血管内科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
フレイルと心不全の相互関連因子探索と心臓リハビリテーションの有効性に関する研究	窪菌 琢郎	心臓血管内科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
下肢深部静脈血栓症におけるDダイマーの有用性及び新たな関連因子に関する研究	大石 充	心臓血管内科	2,000,000	補 委○	えびの市
下肢深部静脈血栓症におけるDダイマーの有用性及び新たな関連因子に関する研究	大石 充	心臓血管内科	500,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
下肢深部静脈血栓症におけるDダイマーの有用性及び新たな関連因子に関する研究	大石 充	心臓血管内科	1,000,000	補 委○	垂水市立医療センター 垂水中央病院
下肢深部静脈血栓症におけるD第1の有用性及び新たな関連因子に関する研究	大石 充	心臓血管内科	1,300,000	補 委○	出水市病院事業
地域住民における脳血管疾患発症に対して効果的な血圧管理についての検討	大石 充	心臓血管内科	2,160,000	補 委○	枕崎市立病院事業
フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証	大石 充	心臓血管内科	1,000,000	補 委○	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
大規模検診から高浸透率家系を抽出する新しい高血圧遺伝子同定法の確立	大石 充	心臓血管内科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
重症下肢虚血患者における血管内増殖因子、microRNAおよび摘出血栓の解析	井本 浩	心臓血管外科	1,000,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
血小板内在性VEGF-Aを分子標的とする新規大腸癌治療の臨床及び分子生物学的研究	井本 浩	心臓血管外科	500,000	補○ 委	日本学術振興会
消化器疾患におけるアルデヒド呼気試験の有用性の検討	井戸 章雄	消化器内科	6,500,000	補 委○	出水市病院事業
生活習慣病が消化器疾患や腎疾患の病態進展に及ぼす影響に関する研究	井戸 章雄	消化器内科	2,000,000	補 委○	国民健康保険 高原病院
組織修復マクロファージに発現する新規分子Gpnmの肝癌の発育・進展に及ぼす影響	井戸 章雄	消化器内科	600,000	補○ 委	日本学術振興会
3次元培養による味細胞スフェロイドの樹立とin vitro実験系の開発	井上 和彦	消化器内科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
好中球由来ペプチドの肺炎に対する影響と臨床的意義の検討	橋元 慎一	消化器内科	600,000	補○ 委	日本学術振興会
膵臓癌のリンパ行性転移のメカニズム解明とその制御法確立のための基礎的研究	藏原 弘	消化器外科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会

消化器癌に対する血中循環腫瘍細胞を標的とした化学療法効果予測マーカーの検索	夏越 祥次	消化器外科	1,000,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
N型糖鎖を用いた膵臓癌特異的癌腫瘍マーカーの開発	夏越 祥次	消化器外科	1,400,000	補 委○	日本学術振興会
癌の進展に対する診断の精度向上に関する研究	夏越 祥次	消化器外科	2,000,000	補 委○	国民健康保険 高原病院
消化器癌の微量癌細胞の着床・増殖機序の解明と臨床応用	夏越 祥次	消化器外科	2,800,000	補 委○	日本学術振興会
消化器癌におけるマイクロRNAの発現検討とその意義についての研究	夏越 祥次	消化器外科	3,000,000	補 委○	小林市立病院
5-アミノレブリン酸とICGを用いた大腸癌術中蛍光診断法の開発	馬場 研二	消化器外科	1,100,000	補 委○	日本学術振興会
膵臓癌細胞由来オルガノイドモデルを用いた放射線化学療法耐性の機序解明	川崎 洋太	消化器外科	1,600,000	補 委○	日本学術振興会
双方向性画像支援機能を持つ胆道・膵再建シミュレーターおよび遠隔指導システムの開発	前村 公成	消化器外科	1,500,000	補 委○	日本学術振興会
手術中における消化器外科医のストレス評価及び医療安全を目指した基礎的データの構築	迫田 雅彦	消化器外科	1,700,000	補 委○	日本学術振興会
免疫チェックポイント分子の機能解析とその制御を標的とした新しい治療法の開発	有上 貴明	消化器外科	1,600,000	補 委○	日本学術振興会
Charcot-Marie-Tooth病の分子病態の解析と治療薬探索	岡本 裕嗣	神経内科	1,100,000	補 委○	日本学術振興会
自己免疫性脳炎・脳症に関する研究	高嶋 博	神経内科	1,300,000	補 委○	出水市病院事業
筋病理と次世代シーケンサーを用いたミトコンドリア病診断率向上に関する検討	高嶋 博	神経内科	1,000,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
自己抗体介在性神経疾患の診断と治療に関する研究(ワクチン後脳炎・脳症など)	高嶋 博	神経内科	400,000	補 委○	国立精神・神経医療研究センター
自己免疫性脳炎の診断と治療に関する研究	高嶋 博	神経内科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
神経筋疾患の原因究明および革新的治療法開発に関する研究	高嶋 博	神経内科	29,510,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HAMに対する日本発の革新的治療となる抗CCR4抗体の実用化研究	松浦 英治	神経内科	130,000	補 委○	学校法人聖マリアンナ医科大学
治験の実施に関する研究[サリドマイド]	渡邊 修	神経内科	800,000	補 委○	(公社)日本医師会治験促進センター
免疫介在性イオンチャネル病の病態解析および新規抗原の解明	渡邊 修	神経内科	1,400,000	補 委○	日本学術振興会
てんかん原性病変におけるメチオニン集積亢進機序の解明	花谷 亮典	脳神経外科	1,000,000	補 委○	日本学術振興会

腰部脊柱管狭窄症における脊柱管内炎症ネットワークの解明	山畑 仁志	脳神経外科	1,100,000	補 委○	日本学術振興会
疼痛・情動行動における脳脊髄FFAR1システムの重要性を検証する	大吉 達樹	脳神経外科	1,400,000	補 委○	日本学術振興会
悪性グリオーマの腫瘍内免疫におけるWntの役割解明と治療への応用	平野 宏文	脳神経外科	1,200,000	補 委○	日本学術振興会
脳卒中後疼痛・情動異常発症メカニズムの検討-「ミクログリア活性化仮説」の評価-	有田 和徳	脳神経外科	1,100,000	補 委○	日本学術振興会
大隅地区におけるがん緩和ケアの現状に関する研究	井上 博雅	呼吸器内科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター 垂水中央病院
重症喘息およびCOPD患者の地域特性に関連したコホート研究	井上 博雅	呼吸器内科	1,300,000	補 委○	出水市病院事業
新規の肺癌診断マーカーの開発	井上 博雅	呼吸器内科	750,000	補 委○	(公社)肝属郡医師 会立病院
HIVE:A new evidence base for respiratory Health Interventions in Volcanic Eruption Crises	井上 博雅	呼吸器内科	10,513,716	補 委○	UNIVERSITY OF DURHAM
血液・気道上皮被覆液miRNA発現解析に基づく呼吸器疾患バイオマーカーの検討	寒川 卓哉	呼吸器内科	1,200,000	補 委○	日本学術振興会
抗原非特異的な喘息増悪の病態におけるTRPチャネルの役割に関する研究	町田 健太郎	呼吸器内科	1,800,000	補 委○	日本学術振興会
肺線維症・肺癌に共通する機能性RNA分子ネットワークの探索と革新的治療法の開発	俣木 浩子	呼吸器内科	1,500,000	補 委○	日本学術振興会
TLRsとその下流因子の肺癌進行における役割の解明	青木 雅也	呼吸器外科	1,200,000	補 委○	日本学術振興会
消化管ペプチドから見た情動・社会行動の発露、こころのゆらぎと変容の神経内分泌機構	乾 明夫	心身医療科	19,900,000	補 委○	日本学術振興会
新たな骨髄-脳相関・骨髄由来細胞を標的とした癌性悪液質・サルコペニアの治療法開発	浅川 明弘	心身医療科	1,400,000	補 委○	日本学術振興会
膀胱癌転移モデルマウスを用いた癌抑制型マイクロRNAの増殖/転移抑制機構の解明	井手迫 俊彦	泌尿器科	200,000	補 委○	日本学術振興会
膀胱癌に対するナノミセルを介した癌抑制型マイクロRNAによる新規核酸治療の開発	榎田 英樹	泌尿器科	3,100,000	補 委○	日本学術振興会
尿路由来大腸菌のフルオロキノロン耐性遺伝子についての解析	中川 昌之	泌尿器科	500,000	補 委○	垂水市立医療センター 垂水中央病院
マイクロRNAによる新規泌尿器癌治療の開発のためのin vivo実験	中川 昌之	泌尿器科	2,000,000	補 委○	(公社)肝属郡医師 会立病院
マイクロRNAによる新規泌尿器癌治療の開発のためのin vivo実験	中川 昌之	泌尿器科	2,000,000	補 委○	小林市立病院
治療抵抗性腎癌における機能性RNA分子ネットワークの探索と革新的治療法の開発	中川 昌之	泌尿器科	6,700,000	補 委○	日本学術振興会

尿路上皮癌・増殖シグナルを遮断するマイクロRNAの探索に基づく革新的治療法の開発	吉野 裕史	泌尿器科	1,800,000	補 委○	日本学術振興会
膀胱癌・新規癌抑制型マイクロRNAが制御する機能性RNA分子ネットワークの探索	松下 良介	泌尿器科	1,500,000	補 委○	日本学術振興会
高分子ナノミセルに搭載した転移抑制マイクロRNAを用いた核酸医薬への挑戦	鐘野 秀一	泌尿器科	1,000,000	補 委○	日本学術振興会
成人T細胞白血病リンパ腫細胞における次世代シーケンサーを用いた遺伝子変異の解析とそれに基づく治療法の確立	石塚 賢治	血液・膠原病内科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	石塚 賢治	血液・膠原病内科	55,011,380	補 委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
J-DREAMSコホートを利用した糖尿病患者の合併症進展に関する縦断研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	300,000	補 委○	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
糖尿病性神経障害と血圧日内変動に関する研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	500,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
糖尿病性多発神経障害の臨床病気と自律神経障害の関連	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	250,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
枕崎地区における糖尿病重症化予防に関する研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	1,080,000	補 委○	枕崎市立病院事業
高齢糖尿病患者のサルコペニアと自律神経障害に関する研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	1,300,000	補 委○	出水市病院事業
新規蛍光物質gGlu-HMRGの臨床応用と遺伝学的アプローチからの精度向上	新田 吉陽	乳腺・甲状腺外科	600,000	補 委○	日本学術振興会
幹細胞マーカーを用いた癌細胞統合下における真の浸潤・転移癌細胞の同定と機序解明	喜多 芳昭	乳腺・甲状腺外科	1,300,000	補 委○	日本学術振興会
乳癌治療時の遊離真皮脂肪片(FDFG)移植に関する基礎的・臨床的研究	喜島 祐子	乳腺・甲状腺外科	1,600,000	補 委○	日本学術振興会
若年認知症関連遺伝子群の包括的変異解析と高齢初発てんかんの特異的臨床症状の抽出	石塚 貴周	神経科精神科	500,000	補 委○	日本学術振興会
特異な中間表現型を有した統合失調症多発家系から同定した責任遺伝子の解析	中村 雅之	神経科精神科	500,000	補 委○	日本学術振興会
薬剤性パーキンソニズムにおけるシナプトタグミンファミリーの関与についての研究	林 岳宏	神経科精神科	2,600,000	補 委○	日本学術振興会
出水地区における小児疾患の予防策と治療成績の向上に関する研究	河野 嘉文	小児科	2,600,000	補 委○	出水市病院事業
枕崎地区における小児予防接種率向上と小児医療体制充実に関する研究	河野 嘉文	小児科	1,080,000	補 委○	枕崎市立病院事業
薬物動態解析と代謝酵素活性分析による安全かつ効果的な小児造血細胞移植術の確立	河野 嘉文	小児科	1,400,000	補 委○	日本学術振興会
アジア国際共同臨床試験を通じたDS-ALLにおける標準治療の開発	岡本 康裕	小児科	19,427,560	補 委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

転移性肝芽腫に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床試験	岡本 康裕	小児科	826,382	補 委○	広島大学
アルデヒド代謝からみたシクロオキシゲナーゼ阻害剤の探索	西川 拓朗	小児科	1,400,000	補○ 委	日本学術振興会
共焦点内視鏡とスペクトロスコープによるHybrid消化管神経叢診断システムの確立	家入 里志	小児外科	700,000	補○ 委	日本学術振興会
手術器具による視野遮蔽領域を補完する”死角なき”小児外科手術ロボットの開発	家入 里志	小児外科	1,500,000	補○ 委	日本学術振興会
カテーテル関連敗血症に対する腸管粘膜の免疫誘導による新規治療法の開発	加治 建	小児外科	1,700,000	補○ 委	日本学術振興会
ハイドロゲン・ナノバブルを用いた壊死性腸炎に対する画期的治療法の開発	川野 孝文	小児外科	1,800,000	補○ 委	日本学術振興会
壊死性腸炎に対するグルカゴンライクペプチド-2を用いた革新的新規治療法の開発	中目 和彦	小児外科	1,800,000	補○ 委	日本学術振興会
婦人科悪性腫瘍に対する縮小手術の研究	小林 裕明	産科、婦人科	1,300,000	補 委○	出水市病院事業
不妊専門相談支援推進研究	中條 有紀子	産科、婦人科	619,542	補 委○	鹿児島県
大型動物脊髄損傷モデルを用いたiPS細胞由来神経幹細胞移植による再生治療研究	あべ松 昌彦	整形外科・リウマチ外科	1,000,000	補○ 委	日本学術振興会
Undifferentiated pleomorphic sarcomaにおける増殖シグナルの研究	小宮 節郎	整形外科・リウマチ外科	2,000,000	補 委○	小林市立病院
薬剤によるマクロファージオートファジー抑制による人工関節長期耐用研究	小宮 節郎	整形外科・リウマチ外科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
新規drug delivery systemに関する研究	小宮 節郎	整形外科・リウマチ外科	1,000,000	補 委○	公立種子島病院
軟骨肉腫浸潤能に影響するTGF-β抑制剤PEG10の役割	小宮 節郎	整形外科・リウマチ外科	500,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
骨軟部肉腫に対する化学療法の効果上昇に関する研究	小宮 節郎	整形外科・リウマチ外科	1,000,000	補 委○	公立種子島病院
骨軟部肉腫の細胞外マトリックス制御による抗腫瘍薬デリバリー改善の新技术開発	永野 聡	整形外科・リウマチ外科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症発症に重要な内軟骨性骨化変化の責任機能遺伝子同定と機能解析	河村 一郎	整形外科・リウマチ外科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
Undifferentiated pleomorphic sarcoma治療開発	泉 俊彦	整形外科・リウマチ外科	1,000,000	補○ 委	日本学術振興会
内軟骨性骨化における後縦靭帯骨化症関連遺伝子STK38Lの役割と標的分子の解析	梶 博則	整形外科・リウマチ外科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
核内受容体をターゲットとしたHDAC阻害剤の併用療法の開発	藤井 一恭	皮膚科	2,000,000	補○ 委	日本学術振興会

皮膚悪性腫瘍の全国規模の研究基盤構築(希少がんの全国規模の研究基盤構築による研究の推進)	藤井 一恭	皮膚科	300,000	補委○	国立研究開発法人国立がん研究センター
HDAC阻害剤の併用療法のターゲットとしてのMAPKシグナル経路の可能性	指宿 敦子	皮膚科	1,100,000	補委○	日本学術振興会
好中球機能からみた炎症性皮膚疾患の病態解明とその治療法の確立	東 裕子	皮膚科	1,400,000	補委○	日本学術振興会
円形脱毛症の病態形成におけるTCRV $\delta 1 + \gamma \delta T$ 細胞の新規の役割	内田 洋平	皮膚科	1,700,000	補委○	日本学術振興会
鹿児島県内眼科疾患の研究	坂本 泰二	眼科	500,000	補委○	(公社)肝属郡医師会立病院
垂水地区における小中学生の眼疾患の疫学的調査	坂本 泰二	眼科	800,000	補委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
北薩地区の眼疾患の概要	坂本 泰二	眼科	1,300,000	補委○	出水市病院事業
眼科セラノスティクス(theranostics)の研究	坂本 泰二	眼科	1,100,000	補委○	日本学術振興会
総合硝子体学の研究:基盤病態解明と治療の研究	坂本 泰二	眼科	4,400,000	補委○	日本学術振興会
眼軸長伸長に伴う眼底微細構造変化の解明	山下 高明	眼科	1,200,000	補委○	日本学術振興会
ヒト極性網膜色素上皮細胞を使った網脈絡膜疾患の病態制御に関する研究	園田 祥三	眼科	1,100,000	補委○	日本学術振興会
極性をもつ網膜色素上皮細胞を用いた加齢黄斑変性の病態解明	寺崎 寛人	眼科	900,000	補委○	日本学術振興会
網膜静脈閉塞症の分子病態と脈絡膜の関連についての検討	大塚 寛樹	眼科	900,000	補委○	日本学術振興会
HTLV-1関連眼疾患の診断法確立のための臨床的研究	中尾 久美子	眼科	800,000	補委○	日本学術振興会
鹿児島県内の小中学生における耳鼻咽喉科疾患の疫学的調査研究	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	660,250	補委○	西之表市
経皮投与が粘膜にあたる影響の調査	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	300,000	補委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
ホスホリルコリンの二相作用を応用した新たな粘膜ワクチンの開発	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,700,000	補委○	日本学術振興会
屋久島町における耳鼻咽喉科疾患の疫学的調査	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	732,000	補委○	屋久島町
垂水市内の小中学生における耳鼻咽喉科疾患の疫学的調査研究	黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	242,090	補委○	垂水市
粘膜免疫応答誘導型経皮ワクチンの開発	永野 広海	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	補委○	日本学術振興会

小計20



IgA腎症における口蓋扁桃の免疫応答と新たなバイオマーカーの開発	地村 友宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,700,000	補○ 委	日本学術振興会
ウサギ脂肪肝モデルを用いた門脈塞栓術の検討	林 完勇	放射線科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
pH強調MR画像の開発と急性期脳梗塞における組織予後推定への応用	吉浦 敬	放射線科	3,700,000	補○ 委	日本学術振興会
パーキンソン病における神経変性を可視化する細胞内タンパクイメージング法の開発	上村 清央	放射線科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
PACAP-PAC1誘発アストロサイトシグナル伝達を標的とする慢性疼痛治療戦略	大納 哲也	麻酔科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
肝虚血再灌流障害における細胞外マトリクスの修飾を介した麻酔薬の臓器保護作用の検討	中原 真由美	麻酔科	800,000	補○ 委	日本学術振興会
術後痛と創傷治癒におけるTRPA1チャネルの役割	長谷川 麻衣子	麻酔科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
プロポフォール注入症候群発症の機序解明とカルニチンによる抑制効果	森山 孝宏	麻酔科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
三叉神経領域の痛覚日内変動機構の解明 - 効果的な時間薬物療法の確立に向けて -	杉村 光隆	歯科麻酔科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
手術中強化インスリン療法によるProtein sparing effectの導入	遠矢 明菜	歯科麻酔科	700,000	補○ 委	日本学術振興会
左室拡張能、圧受容体反射感受性とバイオマーカーによる術後心血管リスク因子の同定	糺谷 淳	歯科麻酔科	2,500,000	補○ 委	日本学術振興会
Rey-Osterriethの図なぞり書き課題を用いた新しい高次脳機能障害評価法の検討	下堂 菌 恵	リハビリテーション科	300,000	補○ 委	垂水市立医療センター 垂水中央病院
脳損傷後の運動障害への包括的リハビリテーション法の開発とその作用メカニズムの解明	下堂 菌 恵	リハビリテーション科	700,000	補○ 委	日本学術振興会
脳卒中片麻痺に対する神経筋電気刺激の効果	松元 秀次	リハビリテーション科	800,000	補○ 委	日本学術振興会
視覚反復刺激療法と大脳刺激による視野障害の治療法の開発と臨床応用	衛藤 誠二	リハビリテーション科	1,600,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔細菌による動脈硬化発症における先天性免疫因子gp-340の関与	於保 孝彦	口腔保健科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
ヒト歯垢による動脈硬化誘発機序の実験的解明	長田 恵美	口腔保健科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔アンギノサスレンサ球菌による深部感染症の発症機構の解析と宿主リスク評価法	山口 泰平	口腔保健科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
新規根面う蝕細菌種を標的とした高齢者QOL向上法の開発	小幡 純子	口腔保健科	1,800,000	補○ 委	日本学術振興会
SLC6A4遺伝子多型と機能性ディスベプシアおよび睡眠時ブラキシズムとの関連	池森 宇泰	矯正歯科	1,000,000	補○ 委	日本学術振興会

脳腸モデルと脳透明化法によるてんかん治療に応用した唾液分泌と嚥下の促進機序の解明	菅 真有	矯正歯科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
新たな自動皮質骨埋入型アンカースクリューを用いた顎整形力付与治療システムの考案	友成 博	矯正歯科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
脳機能を介した片頭痛-酸関連疾患-顎関節症の負のサイクルの解明	永山 邦宏	矯正歯科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
ヒトPS細胞への転写因子Msx2導入による骨芽細胞への分化・骨形成に関する研究	山本 芳丈	矯正歯科	800,000	補○ 委	日本学術振興会
遺伝子多型に応じた機能性ディスペプシアの治療がブラキシズムに及ぼす効果の解明	宮脇 正一	矯正歯科	2,500,000	補○ 委	日本学術振興会
成長期の矯正治療が睡眠時無呼吸、胃食道逆流及び呼吸器疾患に及ぼす効果の解明	宮脇 正一	矯正歯科	700,000	補○ 委	日本学術振興会
認知機能の賦活化による唾液分泌促進機序の解明:脳腸モデルとオプトジェネティクス法	植田 紘貴	矯正歯科	1,000,000	補○ 委	日本学術振興会
不正咬合に起因する“顎口腔サルコペニア”の実態と内分泌・免疫系因子との関連	前田 綾	矯正歯科	1,700,000	補○ 委	日本学術振興会
胃食道逆流と関連する睡眠時ブラキシズムのPPI治療関連因子の探索	大牟禮 治人	矯正歯科	800,000	補○ 委	日本学術振興会
視床下部-下垂体-副腎軸・脳腸相関によるストレス調整と顎口腔機能の関連性の解明	八木 孝和	矯正歯科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
顎骨の劣成長に対する外科的矯正治療が睡眠時無呼吸と胃食道逆流に及ぼす効果の解明	國則 貴玄	矯正歯科	800,000	補○ 委	日本学術振興会
独自の視点からのヒト歯髄幹細胞の同定、選択的濃縮および特性解析	稲田 絵美	小児歯科	500,000	補○ 委	日本学術振興会
マウス歯根形成端周囲組織への直接的遺伝子導入法(GTPT)の開発と応用	窪田 直子	小児歯科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
流体解析を応用したダウン症児OSASの部位特定と歯科的治療モデルの構築	佐藤 秀夫	小児歯科	2,100,000	補○ 委	日本学術振興会
小児OSASの上顎側方急速拡大は漏斗胸を予防する-流体構造連成解析を用いて-	山崎 要一	小児歯科	2,300,000	補○ 委	日本学術振興会
いびきの音響解析を用いたOSAS診断のための新たな検査法の開発	菅 北斗	小児歯科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
口呼吸小児における口唇閉鎖訓練の有効性の検討とスクリーニング法の確立	村上 大輔	小児歯科	1,700,000	補○ 委	日本学術振興会
小児における口呼吸が誘発する異常咀嚼・嚥下機能の3次元動態解析	武元 嘉彦	小児歯科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
MMP活性抑制剤を配合した新規接着剤の研究	星加 知宏	保存科	800,000	補○ 委	日本学術振興会
BMP-9を軸とした新規歯周・顎骨組織再生療法の基盤確立に向けた多面的アプローチ	中村 利明	歯周病科	800,000	補○ 委	日本学術振興会

早産・低体重児出産のリスク低減に向けた原因因子の解明に関する包括的アプローチ	長谷川 梢	歯周病科	1,500,000	補○ 委	日本学術振興会
2型糖尿病ラットへの抗糖尿病薬投与が骨インプラント結合に与える影響について	橋口 千琴	歯周病科	800,000	補○ 委	日本学術振興会
脱分化脂肪細胞(DFAT)由来サイトカインカクテルを用いた新規骨再生療法の開発	篠原 敬哉	歯周病科	1,900,000	補○ 委	日本学術振興会
歯周炎における骨細胞の新たな機能の解明	瀬名 浩太郎	歯周病科	1,400,000	補○ 委	日本学術振興会
In situ 組織工学アプローチを応用した生体内完結型歯周再生療法の新たな試み	白方 良典	歯周病科	1,400,000	補○ 委	日本学術振興会
セメント芽細胞分化誘導を基軸とした歯周組織再生型インプラントの基盤開発	迫田 賢二	歯周病科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
強力な骨形成タンパクBMP-9と脂肪組織由来細胞を活用した新規再生療法の開発	野口 和行	歯周病科	4,300,000	補○ 委	日本学術振興会
咀嚼感覚と耐久性に優れた新規ウレタン系軟性充填材の開発研究	門川 明彦	冠・ブリッジ科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
自己修復機能を有する樹脂を用いた義歯の滑沢を保つコーティング材の開発	南 弘之	冠・ブリッジ科	500,000	補○ 委	日本学術振興会
審美性と接着耐久性を兼ね備えたダイレクトボンディングブリッジの開発	峰元 里子	冠・ブリッジ科	600,000	補○ 委	日本学術振興会
脈管再生能を主体とする顎堤増生治療の開発	西村 正宏	義歯補綴科	4,100,000	補○ 委	日本学術振興会
オートファジーを介した黄色ブドウ球菌排除の分子基盤解明	原田 佳枝	義歯補綴科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
骨置換型材料を用いたオーグーメード型骨造成法の開発	益崎 与泰	義歯補綴科	1,400,000	補○ 委	日本学術振興会
ケアの負担軽減に繋げるための義歯に付与するブラーク付着抑制能の検討	西 恭宏	義歯補綴科	1,000,000	補○ 委	日本学術振興会
コンベネーション保湿による新規保湿方法の開発とその有効性に関する多軸的評価	村上 格	義歯補綴科	1,000,000	補○ 委	日本学術振興会
神経誘導による顎骨再生治療法の開発	末廣 史雄	義歯補綴科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
薩摩川内市鹿島町における住民の口腔疾患に保健管理に関する研究	杉浦 剛	口腔外科	1,000,000	補 委○	薩摩川内市
長島町における住民の口腔疾患に関する調査研究	杉浦 剛	口腔外科	1,000,000	補 委○	長島町
転移先臓器と癌幹細胞を標的とした機能性RNAによる口腔癌新規治療法の開発	杉浦 剛	口腔外科	2,900,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔癌の循環癌細胞分離によるリアルタイム液状細胞診を用いた個別化療法の開発	別府 真広	口腔外科	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会

癌遺伝子 ΔNp63とmicroRNAを介した癌の浸潤・転移機構の解析と治療応用	後藤 雄一	口腔外科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔癌における循環癌細胞の分離による個別化治療法の開発	山下 麻由美	口腔外科	1,000,000	補○ 委	日本学術振興会
カンジダ卵黄抗体と蛍光色素を用いた新しいカンジダ検出法の開発、簡便化と迅速化	上川 善昭	口腔外科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
うがい液からのDNAメチル化異常検出による口腔癌発癌予測システムの開発	濱田 倫史	口腔外科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔癌の浸潤・転移におけるがん幹細胞マーカーの発現と役割	石田 喬之	口腔顎顔面外科	800,000	補○ 委	日本学術振興会
エナメル上皮腫の骨浸潤メカニズムにおける上皮-間葉クロストーク	中村 典史	口腔顎顔面外科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
癒痕拘縮抑制効果を示す自己治癒誘導型接着性多孔膜の開発	岐部 俊郎	口腔顎顔面外科	1,800,000	補○ 委	日本学術振興会
新規樹立したSnail高発現OSCC細胞株を用いた間葉上皮転換機構の解明	久米 健一	口腔顎顔面外科	900,000	補○ 委	日本学術振興会
口蓋裂術後の言語障害の視覚的フィードバックを目指す新たな音声可視化システムの構築	手塚 征宏	口腔顎顔面外科	1,800,000	補○ 委	日本学術振興会
歯性感染症における異種細胞相互作用ならびに細胞極性調節因子と感染防御能の関連解析	石畑 清秀	口腔顎顔面外科	2,600,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔癌の浸潤・転移における低酸素応答がん幹細胞マーカーの意義	比地岡 浩志	口腔顎顔面外科	2,000,000	補○ 委	日本学術振興会
次世代型生体吸収性ハイドロキシアパタイト表面被覆Mg合金の骨内変化に関する研究	野添 悦郎	口腔顎顔面外科	1,500,000	補○ 委	日本学術振興会
歯髄幹細胞による認知症の学習・記憶障害改善効果についての検討	鈴木 甫	口腔顎顔面外科	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
エナメル上皮腫の多様な浸潤発育機構の解明	淵上 貴央	口腔顎顔面外科	1,400,000	補○ 委	日本学術振興会
血管内皮細胞由来microRNAによる糖尿病性血管障害機構の空間統合的解明	山口 宗一	検査部	3,900,000	補○ 委	日本学術振興会
新規内因性低分子RNAによる大血管機能評価の臨床検査システム構築への挑戦	山口 宗一	検査部	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
HIV診療医師情報網支援事業	橋口 照人	検査部	199,000	補 委○	(独)国立病院機構九州医療センターAIDS/HIV総合治療センター
低次元の血球貪食機構と免疫系・鉄代謝系の相互応答機構の存在証明への挑戦	橋口 照人	検査部	1,500,000	補○ 委	日本学術振興会
無核の血小板・赤血球のプログラム細胞死の動態解析と病態検査学への導入展開	橋口 照人	検査部	3,800,000	補○ 委	日本学術振興会
悪性神経内分泌腫瘍に対するI-MIBG内照射療法の開発	神宮司 メグミ	放射線部	7,800,000	補 委○	金沢大学

酸素代謝強調MR画像による膵癌の放射線・化学療法効果と予後予測法の確立	福倉 良彦	放射線部	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)迅速診断のための病態シミュレーション技術構築	伊藤 隆史	救命救急センター	2,600,000	補○ 委	日本学術振興会
蘇生後脳症に対するチトクロームaa3酸化状態による脳モニタリング法の構築	垣花 泰之	救命救急センター	1,700,000	補○ 委	日本学術振興会
HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業(実地研修事業)	古川 良尚	輸血・細胞治療部	360,000	補 委○	(公財)エイズ予防財団
HIV感染者等保健福祉相談事業	古川 良尚	輸血・細胞治療部	750,000	補 委○	(公財)エイズ予防財団
川崎病血管炎におけるスタチン製剤の役割と新たな治療薬としての可能性の検討	上野 健太郎	周産母子センター	2,300,000	補○ 委	日本学術振興会
痛みの神経回路—伝達系と抑制系の相互媒介を単一ニューロンレベルで解析する	大野 幸	全身管理歯科治療部	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
腸管不全関連肝障害の病態解明に基づくグレリン誘導周術期管理治療法の開発	大西 峻	病理部	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
メタボリックシンドロームに対する抗酸化酵素PRDX4の予防メカニズムの解析	山田 壮亮	病理部	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
遺伝子改変ブタを用いた病態高再現性の次世代型アルツハイマー病モデルの開発	谷本 昭英	病理部	4,700,000	補○ 委	日本学術振興会
膵胆管系腫瘍における早期診断システム確立及び治療に対する反応性予測に関する試み	東 美智代	病理部	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
腸管恒常性維持機構におけるフルクトースの影響の解明	上村 修司	光学医療診療部	500,000	補○ 委	日本学術振興会
機能性ナノ磁性微粒子を使用したエクソソームの抽出と解析	盛 真一郎	光学医療診療部	900,000	補○ 委	日本学術振興会
脊髄損傷による神経因性膀胱における温度受容体の機能の解明	吉田 輝	リハビリテーション部	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
インクレチン関連薬は根尖性歯周炎と辺縁性歯周炎の発症機序に影響を及ぼすか？	作田 哲也	歯科総合診療部	600,000	補○ 委	日本学術振興会
エスノグラフィーを用いた歯学コミュニケーション教育プログラムの開発	松本 祐子	歯科総合診療部	1,100,000	補○ 委	日本学術振興会
地域に根ざした歯科医療体系確立のための基礎研究	中山 歩	歯科総合診療部	900,000	補○ 委	日本学術振興会
地域歯科医療教育の体系化とアウトカム基盤型教育への応用に関する研究	田口 則宏	歯科総合診療部	1,800,000	補○ 委	日本学術振興会
難治癌の新規集学的治療開発:遺伝子治療応答性への癌微小環境・悪液質の関わりと制御	上野 真一	腫瘍センター	1,200,000	補○ 委	日本学術振興会
肝炎情報センター戦略的強化事業委託費	井戸 章雄	肝疾患相談センター	5,142,000	補 委○	国立国際医療研究医療研究センター

肝疾患診療地域連携体制強化事業業務委託	井戸 章雄	肝疾患相談センター	12,586,000	補 委○	鹿児島県
転移がんを制圧する独自の免疫ウイルス薬の開発と実用化への取組の研究	小賤 健一郎	探索的医療開発センター	3,000,000	補 委○	京都大学
肉腫への革新的医薬実用化を目指した独自開発の増殖制御型アデノウイルスの医師主導治験	小賤 健一郎	探索的医療開発センター	170,062,000	補 委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
継続診療に繋がる退院時要約作成支援システム開発のためのデータマイニング技術の応用	岩穴口 孝	医療情報部	1,000,000	補 委○	日本学術振興会
人工知能を応用したデータマイニングによる糖尿病合併症危険因子発見に関する研究	村永 文学	医療情報部	2,200,000	補 委○	日本学術振興会
重症心身障害児に対する3Dスキャナーを用いた腹腔鏡ポータルアウトシステムの開発	山田 耕嗣	総合臨床研修センター	1,700,000	補 委○	日本学術振興会
地域枠修学生離島へき地医療実習等業務委託	大脇 哲洋	地域医療支援センター	4,718,520	補 委○	鹿児島県
地域医療支援センター設置事業業務委託	大脇 哲洋	地域医療支援センター	21,884,000	補 委○	鹿児島県
小児由来の腸管凝集性大腸菌のゲノム解析を通じた病原・薬剤耐性遺伝子伝播機構の研究	西 順一郎	医療環境安全部	1,100,000	補 委○	日本学術振興会
食道癌に対する個別化治療、予後予測を可能とするN型糖鎖マーカーの検索	内門 泰斗	医療環境安全部	1,800,000	補 委○	日本学術振興会
がん幹細胞を標的とする新規がん分子標的治療薬の開発	池田 龍二	薬剤部	900,000	補 委○	日本学術振興会
神経接着分子Casprを介したグリオーマ浸潤機構の解明と新規治療戦略	武田 泰生	薬剤部	1,100,000	補 委○	日本学術振興会
へき地診療所に派遣される看護師に対する教育研修システム構築のための基礎的研究	楠元 裕佳	看護部	600,000	補 委○	日本学術振興会
膵臓癌患者の術中迅速RT-PCRにおける腹腔内遊離癌細胞検出の有用性	又木 雄弘	病院再開発推進室	2,000,000	補 委○	えびの市

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計14

合計234

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能 病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Miyata M.	心臓血管内科	Impact of Insulin Resistance on Clinical Outcomes After Implantation of Drug-Eluting Stents.	Circ J. 2016;80(3):592-3.	Others
2	Oketani N, Seitz J, Salazar M, et al.	心臓血管内科	Ablation of complex fractionated electrograms is useful for catheter ablation of persistent atrial fibrillation: Protagonist point of view.	Heart Rhythm. 2016 Oct;13(10):2098-100.	Review
3	Takumi T, Miyata M, Ohishi M.	心臓血管内科	Physiological Assessment in Peripheral Artery Disease: Going Beyond Angiography.	J Atheroscler Thromb. 2016;23(1):44-5.	Others
4	Mukaihara K, Matsumoto K, Kadono J, et al.	心臓血管外科	A surgical case of mycotic aneurysm with Staphylococcus lugdunensis endocarditis.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2017 May;25(4):296-299.	Case report
5	Arigami T, Uenosono Y, Ishigami S, et al.	消化器外科	Clinical Significance of the Glasgow Prognostic Score in Patients with Gastrointestinal Stromal Tumors.	Anticancer Res. 2016 Dec;36(12):6687-6690.	Original Article
6	Arigami T, Uenosono Y, Ishigami S, et al.	消化器外科	Clinical Impact of Stomach-partitioning Gastrojejunostomy with Braun Enteroenterostomy for Patients with Gastric Outlet Obstruction Caused by Unresectable Gastric Cancer.	Anticancer Res. 2016 Oct;36(10):5431-5436.	Original Article
7	Arigami T, Uenosono Y, Yanagita S, et al.	消化器外科	Sentinel node navigation surgery for gastroduodenal neuroendocrine tumors: Two case reports.	Medicine (Baltimore). 2016 Jun;95(26):e4063.	Case report
8	Hashimoto S, Ito K, Koshida S, et al.	消化器内科	Risk Factors for Post-Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography (ERCP) Pancreatitis and Stent Dysfunction after Preoperative Biliary Drainage in Patients with Malignant Biliary Stricture.	Intern Med. 2016;55(18):2529-36.	Original Article
9	Hashimoto S, Sendo K, Ido A.	消化器内科	Endoscopic double stenting for afferent and efferent loop stenosis in a patient with recurrent gastric carcinoma after Billroth II reconstruction.	Dig Endosc. 2016 May;28(4):485.	Case report
10	Kijima T, Arigami T, Uchikado Y, et al.	消化器外科	Combined fibrinogen and neutrophil-lymphocyte ratio as a prognostic marker of advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Cancer Sci. 2017 Feb;108(2):193-199.	Original Article

小計 10

11	Kurahara H, Bohl C, Natsugoe S, et al.	消化器外科	Suppression of pancreatic cancer growth and metastasis by HMP19 identified through genome-wide shRNA screen.	Int J Cancer. 2016 Aug 1;139(3):628-38.	Original Article
12	Kurahara H, Maemura K, Mataki Y, et al.	消化器外科	Clinical significance of serum carbohydrate antigen 19.9 and duke pancreatic monoclonal antigen type 2 for the prediction of hematogenous metastases in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma.	Pancreatology. 2016 Nov - Dec;16(6):1051-1056.	Original Article
13	Kurahara H, Maemura K, Mataki Y, et al.	消化器外科	Relationship between the surgical margin status, prognosis, and recurrence in extrahepatic bile duct cancer patients.	Langenbecks Arch Surg. 2017 Feb;402(1):87-93.	Original Article
14	Kurahara H, Maemura K, Mataki Y, et al.	消化器外科	Impact of p53 and PDGFR- $\beta$ Expression on Metastasis and Prognosis of Patients with Pancreatic Cancer.	World J Surg. 2016 Aug;40(8):1977-84.	Original Article
15	Kurahara H, Maemura K, Mataki Y, et al.	消化器外科	Preoperative biliary drainage-related inflammation is associated with shorter survival in biliary tract cancer patients.	Int J Clin Oncol. 2016 Oct;21(5):934-939.	Original Article
16	Maemura K, Mataki Y, Kurahara H, et al.	消化器外科	Gemcitabine and S-1 Induction Chemotherapy Followed by Chemoradiotherapy for Locally Advanced Pancreatic Cancers.	Anticancer Res. 2017 Jan;37(1):233-237.	Original Article
17	Okubo K, Uenosono Y, Arigami T, et al.	消化器外科	Clinical significance of altering epithelial-mesenchymal transition in metastatic lymph nodes of gastric cancer.	Gastric Cancer. 2017 Feb 28.	Original Article
18	Osako Y, Seki N, Kita Y, et al.	消化器外科	Regulation of MMP13 by antitumor microRNA-375 markedly inhibits cancer cell migration and invasion in esophageal squamous cell carcinoma.	Int J Oncol. 2016 Dec;49(6):2255-2264.	Original Article
19	Sakoda M, Iino S, Mataki Y, et al.	消化器外科	Influence of a Shorter Duration of Post-Operative Antibiotic Prophylaxis on Infectious Complications in Patients Undergoing Elective Liver Resection.	Surg Infect (Larchmt). 2017 Feb/Mar;18(2):149-156.	Original Article
20	Sakoda M, Ueno S, Iino S, et al.	消化器外科	Survival Benefits of Small Anatomical Resection of the Liver for Patients with Hepatocellular Carcinoma and Impaired Liver Function, Based on New-Era Imaging Studies.	J Cancer. 2016 May 25;7(9):1029-36	Original Article



21	Sasaki K, Uchikado Y, Okumura H, et al.	消化器外科	Role of 18F-FDG-PET/CT in Esophageal Squamous Cell Carcinoma After Neoadjuvant Chemoradiotherapy.	Anticancer Res. 2017 Feb;37(2):859-864.	Original Article
22	Shinden Y, Kijima Y, Hirata M, et al.	消化器外科	Clinical Significance of the Histoculture Drug Response Assay in Breast Cancer.	Anticancer Res. 2016 Nov;36(11):6173-6178.	Original Article
23	Shinden Y, Ueo H, Tobo T, et al.	消化器外科	Rapid diagnosis of lymph node metastasis in breast cancer using a new fluorescent method with $\gamma$ -glutamyl hydroxymethyl rhodamine green.	Sci Rep. 2016 Jun 9;6:27525.	Original Article
24	Tanabe K, Shinsato Y, Furukawa T, et al.	消化器外科	Filamin C promotes lymphatic invasion and lymphatic metastasis and increases cell motility by regulating Rho GTPase in esophageal squamous cell carcinoma.	Oncotarget. 2017 Jan 24;8(4):6353-6363.	Original Article
25	Tanoue S, Kaplan DE.	消化器内科	CD14(+) regulatory dendritic cells in patients with hepatocellular carcinoma and cirrhosis.	Hepatology. 2016 Apr;63(4):1391-2.	Letter
26	Matsuura E, Nozuma S, Tashiro Y, et al.	神経内科	HTLV-1 associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP): A comparative study to identify factors that influence disease progression.	J Neurol Sci. 2016 Dec 15;371:112-116.	Original Article
27	Fujio S, Arimura H, Hirano H, et al.	脳神経外科	Changes in quality of life in patients with acromegaly after surgical remission - A prospective study using SF-36 questionnaire.	Endocr J. 2017 Jan 30;64(1):27-38.	Original Article
28	Fujio S, Takano K, Arimura H, et al.	脳神経外科	Treatable glomerular hyperfiltration in patients with active acromegaly.	Eur J Endocrinol. 2016 Oct;175(4):325-33.	Original Article
29	Hanada T, Rahayu TU, Yamahata H, et al.	脳神経外科	Rapid malignant transformation of low-grade astrocytoma in a pregnant woman.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Oct;42(10):1385-1389.	Original Article
30	Hanaya R, Niantiamo FH, Kashida Y, et al.	脳神経外科	Vagus nerve stimulation for genetic epilepsy with febrile seizures plus (GEFS+) accompanying seizures with impaired consciousness.	Epilepsy Behav Case Rep. 2016 Nov 9;7:16-19.	Case report

31	Higa N, Yonezawa H, Oyoshi T, et al.	脳神経外科	Ganglioglioma in the Third Ventricle: A Case Report and Literature Review.	NMC Case Rep J. 2016 May 19;3(3):97-101.	Case report
32	Hirano H, Kawahara T, Niuro M, et al.	脳神経外科	Anaplastic astrocytoma cells not detectable on autopsy following long-term temozolomide treatment: A case report.	Mol Clin Oncol. 2017 Mar;6(3):321-326.	Case report
33	Kashida Y, Otsubo T, Hanaya R, et al.	脳神経外科	Determination of hemispheric language dominance using functional magnetic resonance imaging and the Shiritori (Japanese word chain) task in patients with epilepsy: Comparison with the Wada test.	Epilepsy Res. 2016 Aug;124:16-22.	Original Article
34	Yamahata H, Osuka K, Aoyama T, et al.	脳神経外科	Expression of the JAK/STAT signaling pathway in the ligamentum flavum of patients with lumbar spinal canal stenosis.	J Orthop Sci. 2017 Mar;22(2):190-196.	Original Article
35	Yonezawa H, Hirano H, Uchida H, et al.	脳神経外科	Efficacy of bevacizumab therapy for unresectable malignant glioma: A retrospective analysis.	Mol Clin Oncol. 2017 Jan;6(1):105-110.	Original Article
36	Kamikawaji K, Seki N, Watanabe M, et al.	呼吸器内科	Regulation of LOXL2 and SERPINH1 by antitumor microRNA-29a in lung cancer with idiopathic pulmonary fibrosis.	J Hum Genet. 2016 Dec;61(12):985-993.	Original Article
37	Kumamoto T, Seki N, Mataki H, et al.	呼吸器内科	Regulation of TPD52 by antitumor microRNA-218 suppresses cancer cell migration and invasion in lung squamous cell carcinoma.	Int J Oncol. 2016 Nov;49(5):1870-1880.	Original Article
38	Mataki H, Seki N, Mizuno K, et al.	呼吸器内科	Dual-strand tumor-suppressor microRNA-145 (miR-145-5p and miR-145-3p) coordinately targeted MTDH in lung squamous cell carcinoma.	Oncotarget. 2016 Nov 1;7(44):72084-72098.	Original Article
39	Mizuno K, Mataki H, Seki N, et al.	呼吸器内科	MicroRNAs in non-small cell lung cancer and idiopathic pulmonary fibrosis.	J Hum Genet. 2017 Jan;62(1):57-65.	Original Article
40	Nagata T, Nakamura Y, Kariatsumari K, et al.	呼吸器外科	Potentially overlooked branches of the left pulmonary artery.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2016 Sep;24(7):676-80.	Original Article

41	Enokida H, Yoshino H, Matsushita R, et al.	泌尿器科	The role of microRNAs in bladder cancer.	Investig Clin Urol. 2016 Jun;57 Suppl 1:S60-76.	Original Article
42	Arimura H, Hashiguchi H, Yamamoto K, et al.	糖尿病・内分泌内科	Investigation of the clinical significance of the growth hormone-releasing peptide-2 test for the diagnosis of secondary adrenal failure.	Endocr J. 2016 Jun 30;63(6):533-44.	Original Article
43	Kijima Y, Yoshinaka H, Hirata M, et al.	乳腺・甲状腺外科	Therapeutic mastoplasty combining partial mastectomy with nipple-areola grafting for patients with early breast cancer: a case series.	Surg Today. 2016 Oct;46(10):1187-95.	Case report
44	Kita Y, Yonemori K, Osako Y, et al.	乳腺・甲状腺外科	Noncoding RNA and colorectal cancer: its epigenetic role.	J Hum Genet. 2017 Jan;62(1):41-47	Original Article
45	Nakajo A, Arima H, Hirata M, et al.	乳腺・甲状腺外科	Bidirectional Approach of Video-Assisted Neck Surgery (BAVANS): Endoscopic complete central node dissection with craniocaudal view for treatment of thyroid cancer.	Asian J Endosc Surg. 2017 Feb;10(1):40-46.	Original Article
46	Maruyama S, Okamoto Y, Toyoshima M, et al.	小児科	Immunoglobulin A deficiency following treatment with lamotrigine.	Brain Dev. 2016 Nov;38(10):947-949.	Case report
47	Kaji T, Kawano T, Yamada W, et al.	小児外科	The changing profile of safe techniques for the insertion of a central venous catheter in pediatric patients – improvement in the outcome with the experiences of 500 insertions in a single institution.	J Pediatr Surg. 2016 Dec;51(12):2044-2047.	Original Article
48	Kaji T, Nakame K, Machigashira S, et al.	小児外科	Predictors of a successful outcome for infants with short bowel syndrome: a 30-year single-institution experience.	Surg Today. 2017 Apr 22.	Original Article
49	Kawano T, Kaji T, Onishi S, et al.	小児外科	Efficacy of ethanol locks to reduce the incidence of catheter-related bloodstream infections for home parenteral nutrition pediatric patients: comparison of therapeutic treatment with prophylactic treatment.	Pediatr Surg Int. 2016 Sep;32(9):863-7.	Original Article
50	Nishibaba R, Higashi Y, Goto Y, et al.	皮膚科	Epithelioid sarcoma with multiple lesions on the left arm: a case report.	J Med Case Rep. 2016 Oct 24;10(1):295.	Case report

小計 10

51	Nishibaba R, Higashi Y, Mera K, et al.	皮膚科	Successful etretinate treatment of recurrent keratoacanthomas on a skin graft: Case report.	J Dermatol. 2017 Feb;44(2):224-225.	Case report
52	Yoshifuku A, Fujii K, Kawahira H, et al.	皮膚科	Long-lasting Localized Pemphigus Vulgaris without Detectable Serum Autoantibodies Against Desmoglein 3 and Desmoglein 1.	Indian J Dermatol. 2016 Jul-Aug;61(4):427-9.	Case report
53	Nakazawa M, Terasaki H, Yamashita T, et al.	眼科	Changes in visual field defects during 10-year follow-up for indocyanine green-assisted macular hole surgery,	Jpn J Ophthalmol. 2016 Sep;60(5):383-7.	Original Article
54	Sakamoto T.	眼科	Response to comment on: Relative changes in luminal and stromal areas of choroid determined by binarization of EDI-OCT images in eyes with Vogt-Koyanagi-Harada disease after treatment.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2016 Jul;254(7):1449-50.	Letter
55	Sonoda S, Sakamoto T, Kuroiwa N, et al.	眼科	Structural Changes of Inner and Outer Choroid in Central Serous Chorioretinopathy Determined by Optical Coherence Tomography.	PLoS One. 2016 Jun 15;11(6):e0157190. (オンライン)	Original Article
56	Terasaki H, Yamashita T, Yoshihara N, et al.	眼科	Location of Tessellations in Ocular Fundus and Their Associations with Optic Disc Tilt, Optic Disc Area, and Axial Length in Young Healthy Eyes.	PLoS One. 2016 Jun 8;11(6):e0156842. (オンライン)	Original Article
57	Yamashita T, Sakamoto T, Yoshihara N, et al.	眼科	Peripapillary Nerve Fiber Elevation in Young Healthy Eyes.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Aug 1;57(10):4368-72.	Original Article
58	Yamashita T, Sakamoto T, Yoshihara N, et al.	眼科	Correlations Between Retinal Nerve Fiber Layer Thickness and Axial Length, Peripapillary Retinal Tilt, Optic Disc Size, and Retinal Artery Position in Healthy Eyes.	J Glaucoma. 2017 Jan;26(1):34-40.	Original Article
59	Yamashita T, Terasaki H, Sakamoto T.	眼科	Minification of fundus optical coherence tomographic images in gas-filled eye.	BMC Ophthalmol. 2016 Jul 26;16:124.	Original Article
60	Yoshihara N, Terasaki H, Shirasawa M, et al.	眼科	PERMEABILITY AND ANTI-VASCULAR ENDOTHELIAL GROWTH FACTOR EFFECTS OF BEVACIZUMAB, RANIBIZUMAB, AND AFLIBERCEPT IN POLARIZED RETINAL PIGMENT EPITHELIAL LAYER IN VITRO.	Retina. 2017 Jan;37(1):179-190.	Original Article

61	Kawabata M, Ohori J, Kurono Y.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effects of benzalkonium chloride on histamine H1 receptor mRNA expression in nasal epithelial cells.	Auris Nasus Larynx. 2016 Dec;43(6):685-8.	Original Article
62	Kawabata M, Umakoshi M, Makise T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Clinical classification of peritonsillar abscess based on CT and indications for immediate abscess tonsillectomy.	Auris Nasus Larynx. 2016 Apr;43(2):182-8.	Original Article
63	Kamimura K, Nakajo M, Fukukura Y, et al.	放射線科	Intravoxel Incoherent Motion in Normal Pituitary Gland: Initial Study with Turbo Spin-Echo Diffusion-Weighted Imaging.	AJNR Am J Neuroradiol. 2016 Dec;37(12):2328-2333.	Original Article
64	Nakajo M, Jinguji M, Nakabeppu Y, et al.	放射線科	Texture analysis of 18F-FDG PET/CT to predict tumour response and prognosis of patients with esophageal cancer treated by chemoradiotherapy.	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2017 Feb;44(2):206-214.	Original Article
65	Nakajo M, Kajiya Y, Jinguji M, et al.	放射線科	Current clinical status of 18F-FLT PET or PET/CT in digestive and abdominal organ oncology.	Abdom Radiol (NY). 2017 Mar;42(3):951-961.	Original Article
66	Nakajo M, Kajiya Y, Tani A, et al.	放射線科	FLT-PET/CT diagnosis of primary and metastatic nodal lesions of gastric cancer: comparison with FDG-PET/CT.	Abdom Radiol (NY). 2016 Oct;41(10):1891-8.	Review
67	Indo HP, Hawkins CL, Nakanishi I, et al.	顎顔面放射線科	Role of Mitochondrial Reactive Oxygen Species in the Activation of Cellular Signals, Molecules, and Function.	Handb Exp Pharmacol. 2017 Feb 8.	Others
68	Indo HP, Majima HJ, Terada M, et al.	顎顔面放射線科	Changes in mitochondrial homeostasis and redox status in astronauts following long stays in space.	Sci Rep. 2016 Dec 16;6:39015.	Original Article
69	Majima HJ, Indo HP, Nakanishi I, et al.	顎顔面放射線科	Chasing great paths of Helmut Sies "Oxidative Stress".	Arch Biochem Biophys. 2016 Apr 1;595:54-60.	Review
70	Suenaga S, Nagayama K, Nagasawa T, et al.	顎顔面放射線科	Evaluation of the relationships between contrast-enhanced magnetic resonance characteristics and joint pain in patients with temporomandibular disorders.	Oral Radiol (2016) 32:87-97	Review

71	Suenaga S, Nagayama K, Nagasawa T, et al.	顎顔面放射線科	The usefulness of diagnostic imaging for the assessment of pain symptoms in temporomandibular disorders.	Jpn Dent Sci Rev. 2016 Nov;52(4):93-106.	Review
72	Arima M, Ogata A, Kawahira K, et al.	リハビリテーション科	Improvement and Neuroplasticity after Combined Rehabilitation to Forced Grasping.	Case Rep Neurol Med. 2017;2017:1028390. (オンライン)	Case report
73	Matsumoto S, Shimodozono M, Noma T, et al.	リハビリテーション科	Outcomes of repetitive facilitation exercises in convalescent patients after stroke with impaired health status.	Brain Inj. 2016;30(13-14):1722-1730.	Original Article
74	Matsumoto S, Uema T, Ikeda K, et al.	リハビリテーション科	Effect of Underwater Exercise on Lower-Extremity Function and Quality of Life in Post-Stroke Patients: A Pilot Controlled Clinical Trial.	J Altern Complement Med. 2016 Aug;22(8):635-41.	Original Article
75	Nagata E, Oho T.	口腔保健科	Invasive Streptococcus mutans induces inflammatory cytokine reduction in human aortic endothelial cells via regulation of intracellular toll-like receptor 2 and nucleotide-binding oligomerization domain 2.	Mol Oral Microbiol. 2017 Apr;32(2):131-141.	Original Article
76	Nakashima Y, Nagata E, Oho T.	口腔保健科	Impact of Physical Stress on Salivary Buffering Capacity	Makara J. Health Res., 2016, 20(2): 57-62	Original Article
77	Ohmure H, Kanematsu-Hashimoto K, Nagayama K, et al.	矯正歯科	Evaluation of a Proton Pump Inhibitor for Sleep Bruxism: A Randomized Clinical Trial.	J Dent Res. 2016 Dec;95(13):1479-1486.	Original Article
78	Ueda H, Suga M, Yagi T, et al.	矯正歯科	Vagal afferent activation induces salivation and swallowing-like events in anesthetized rats.	Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 2016 Nov 1;311(5):R964-R970.	Original Article
79	Inada E, Saitoh I, Kubota N, et al.	小児歯科	Alkaline phosphatase and OCT-3/4 as useful markers for predicting susceptibility of human deciduous teeth-derived dental pulp cells to reprogramming factor-induced IPS cells.	J Investig Clin Dent. 2016 Sep 18. (オンライン)	Original Article
80	Harada-Hada K, Hong G, Abekura H, et al.	義歯補綴科	Evaluation of the efficiency of denture cleaners for removing denture adhesives.	Gerodontology. 2016 Dec;33(4):453-460.	Original Article

小計 10

81	Harada-Hada K, Mimura S, Hong G, et al.	義歯補綴科	Accelerating effects of cellulase in the removal of denture adhesives from acrylic denture bases.	J Prosthodont Res. 2017 Apr;61(2):185-192.	Original Article
82	Ishida T, Hijioka H, Kume K, et al.	口腔顎顔面外科	A diagnosis system for detecting cervical lymph node metastasis in oral squamous cell carcinoma: Collective consideration of the results of multiple imaging modalities.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology . Vol.29(3): pp210-216, 2017.	Original Article
83	Kibe T, Koga T, Nishihara K, et al.	口腔顎顔面外科	Examination of the early wound healing process under different wound dressing conditions.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2017 Mar;123(3):310-319.	Original Article
84	Matsumoto K, Nozoe E, Okawachi T, et al.	口腔顎顔面外科	Preliminary Analysis of the 3-Dimensional Morphology of the Upper Lip Configuration at the Completion of Facial Expressions in Healthy Japanese Young Adults and Patients With Cleft Lip.	J Oral Maxillofac Surg. 2016 Sep;74(9):1834-46.	Original Article
85	Nakamura N, Okawachi T, Matsumoto K, et al.	口腔顎顔面外科	Clinical and 3-Dimensional Analyses of Nasal Forms After Secondary Correction of Cleft Lip-Nose Deformities Using Extended Spreader Cartilage Graft With a Cross-Lap Joint Technique.	J Oral Maxillofac Surg. 2016 Jul;74(7):1465.e1-1465.e21.	Original Article
86	Okawachi T, Nozoe E, Ishihata K, et al.	口腔顎顔面外科	Comparison of Postoperative Stability and Complications Following Orthogenetic Surgery between Patients with Skeletal Class III Deformity with/without Cleft Lip and Palate.	OHDM- Vol. 16- No.2- April, 2017	Original Article
87	Tezuka M, Tamatsu Y, Miura N, et al.	口腔顎顔面外科	Cephalometric Analysis of the Velopharyngeal Muscular Triangle as a Possible Prognostic Factor for Velopharyngeal Closure in Submucous Cleft Palate.	J Speech Pathol Ther. Vol.1(3): pp. 3-8, 2016.	Original Article
88	Yoshimura T, Yamada S, Ishida T, et al.	口腔顎顔面外科	Cystadenocarcinoma of the minor salivary gland arising in the upper lip: A surgical case of an inadequate cytology specimen hampering conclusive diagnosis.	Human Pathology:Case Reports. September 2017Volume 9, Pages 64-68	Case report
89	Yoshimura T, Yamada S, Shima K, et al.	口腔顎顔面外科	An Elastofibromatous Lesion at the Tip of the Sublingual Fold.	J Dent & Oral Disord. 2016; 2(6): 1031.	Case report
90	Hiraki T, Yamada S, Higashi M, et al.	病理部	Immunohistochemical expression of mucin antigens in gallbladder adenocarcinoma: MUC1-positive and MUC2-negative expression is associated with vessel invasion and shortened survival.	Histol Histopathol. 2017 Jun;32(6):585-598.	Others

91	Onishi S, Kaji T, Yamada W, et al.	病理部	The administration of ghrelin improved hepatocellular injury following parenteral feeding in a rat model of short bowel syndrome.	Pediatr Surg Int. 2016 Dec;32(12):1165-1171.	Original Article
92	Onishi S, Nakame K, Yamada K, et al.	病理部	Long-term outcome of bowel function for 110 consecutive cases of Hirschsprung's disease: Comparison of the abdominal approach with transanal approach more than 30years in a single institution - is the transanal approach truly beneficial for bowel function?	J Pediatr Surg. 2016 Dec;51(12):2010-2014.	Original Article
93	Yamada S, Guo X, Wang KY, et al.	病理部	Novel function of histamine signaling via histamine receptors in cholesterol and bile acid metabolism: Histamine H2 receptor protects against nonalcoholic fatty liver disease.	Pathol Int. 2016 Jul;66(7):376-85.	Original Article
94	Yamada S, Kirishima M, Hiraki T, et al.	病理部	Epithelioid schwannoma of the skin displaying unique histopathological features: a teaching case giving rise to diagnostic difficulties on a morphological examination of a resected specimen, with a brief literature review.	Diagn Pathol. 2017 Jan 19;12(1):11.	Case report
95	Yamada S, Nawata A, Yoshioka M, et al.	病理部	Complete regression of primary cutaneous malignant melanoma associated with distant lymph node metastasis: a teaching case mimicking blue nevus.	BMC Res Notes. 2016 Jul 26;9:366.	Case report
96	Yamada S, Noguchi H, Tanimoto A.	病理部	Critical and diverse in vivo roles of apoptosis signal-regulating kinase 1 in animal models of atherosclerosis and cholestatic liver injury.	Histol Histopathol. 2017 May;32(5):433-444.	Review
97	Yamada S, Tanimoto A, Sasaguri Y.	病理部	Critical in vivo roles of histamine and histamine receptor signaling in animal models of metabolic syndrome.	Pathol Int. 2016 Dec;66(12):661-671.	Review
98	Fukukura Y, Shindo T, Hakamada H, et al.	放射線部	Diffusion-weighted MR imaging of the pancreas: optimizing b-value for visualization of pancreatic adenocarcinoma.	Eur Radiol. 2016 Oct;26(10):3419-27	Original Article
99	Jinguji M, Kajiya Y, Nakajo M, et al.	放射線部	Increased 18F-FDG Uptake in the Spleen and Multiple Lymph Nodes in Dengue Fever.	Clin Nucl Med. 2016 May;41(5):e255-6. (オンライン)	Case report
100	Jinguji M, Nakajo M, Nakajo M, et al.	放射線部	Vasovagal-related stress immediately before FDG injection may increase bilateral adrenal FDG uptake.	Br J Radiol. 2016;89(1061):2015095 0. (オンライン)	Original Article



101	Nakajo M, Kajiya Y, Tani A, et al.	放射線部	A pilot study of the diagnostic and prognostic values of FLT-PET/CT for pancreatic cancer: comparison with FDG-PET/CT.	Abdom Radiol (NY). 2017 Apr;42(4):1210-1221.	Original Article
102	Tsukuya G, Samukawa T, Matsumoto K, et al.	救命救急センター	Comparison of the COPD Population Screener and International Primary Care Airway Group questionnaires in a general Japanese population: the Hisayama study.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2016 Aug 16;11:1903-9.	Original Article
103	Yanagimoto K, Okamoto Y, Kodama Y, et al.	集中治療部	Decrease of Cardiac Base Rotation in 2D Speckle Tracking Indicates Drug-induced Cardiomyopathy After Chemotherapy in Children With Cancer.	J Pediatr Hematol Oncol. 2017 Jan;39(1):10-14.	Original Article
104	Ueno K, Ninomiya Y, Hazeke D, et al.	周産母子センター	Disruption of Endothelial Cell Homeostasis Plays a Key Role in the Early Pathogenesis of Coronary Artery Abnormalities in Kawasaki Disease.	Sci Rep. 2017 Mar 3;7:43719. (オンライン)	Original Article
105	Ueno K, Ninomiya Y, Shiokawa N, et al.	周産母子センター	Dexmedetomidine is Associated with an Increased Incidence of Bradycardia in Patients with Trisomy 21 After Surgery for Congenital Heart Disease.	Pediatr Cardiol. 2016 Oct;37(7):1228-34.	Original Article
106	Kanmura S, Hamamoto H, Morinaga Y, et al.	光学医療診療部	Fecal Human Neutrophil Peptide Levels Correlate with Intestinal Inflammation in Ulcerative Colitis.	Digestion. 2016;93(4):300-8.	Original Article
107	Maeda T, Sakiyama T, Kanmura S, et al.	光学医療診療部	Low concentrations of human neutrophil peptide ameliorate experimental murine colitis.	Int J Mol Med. 2016 Dec;38(6):1777-1785.	Original Article
108	Yamada W, Kaji T, Onishi S, et al.	総合臨床研修センター	Ghrelin improves intestinal mucosal atrophy during parenteral nutrition: An experimental study.	J Pediatr Surg. 2016 Dec;51(12):2039-2043.	Original Article
109	Tokuda K, Yahata Y, Sunagawa T.	医療環境安全部	Prevention of secondary household transmission during Shiga toxin-producing Escherichia coli outbreaks.	Epidemiol Infect. 2016 Oct;144(14):2931-2939.	Original Article
110	Uchida H, Hirano H, Moinuddin FM, et al.	臨床研究管理センター	Radiologic and histologic features of the T2 hyperintensity rim of meningiomas on magnetic resonance images.	Neuroradiol J. 2017 Feb;30(1):48-56.	Original Article

111	Kondo T, Kondo Y, Orita Y, et al.	薬剤部	Predictive Factors for Efficacy and Safety of Prophylactic Theophylline for Extubation in Infants with Apnea of Prematurity.	PLoS One. 2016 Jul 7;11(7):e0157198. (オンライン)	Original Article
112	Mori K, Horinouchi M, Domitsu A, et al.	臨床技術部	Proper oral hygiene protocols decreased inflammation of gingivitis in a patient during chemotherapy with bevacizumab: a case report.	Clin Case Rep. 2017 Jul 8;5(8):1352-1357.	Case report

小計 2

計 112 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	基俊介、門野潤、北園巖、他	心臓血管外科	腹腔鏡下に切除した脾動脈瘤の1例-手術の工夫について-	日本内視鏡外科学会雑誌21巻4号:441-446, 2016	Case report
2	井上和彦、嵯山敏男、瀬戸山香苗、他	消化器内科	血便を契機に発見された成人空腸消化管重複症の1例.	日消誌. 2016 Apr; 113:662-71	Case report
3	坂江遥、玉井努、小田耕平、他	消化器内科	脾破裂を伴い急性肝不全様の経過を呈した悪性リンパ腫の1例	肝臓. 2016 Oct;57(12):674-83	Case report
4	前田英仁、橋元慎一、中澤潤一、他	消化器内科	胃の瘻孔から主膵管内をNBI(narrow band imaging)拡大観察し得た混合型IPMC (Intraductal Papillary-Mucinous Carcinoma)の1例.	膵臓. 2016 Sep;31(4):638-45	Case report
5	有上孝明、夏越祥次	消化器外科	食道浸潤を有する残胃癌の術式について	胃がん Perspective.Vol8(4),42-46,2016年4月.	Original Article
6	前村公成、又木雄弘、巖原弘、他	消化器外科	胆道癌切除術後の局所再発に対する化学放射線療法の検討	日本胆道学会雑誌30(2)198-205,2016年	Original Article
7	前村公成	消化器外科	膵切除後再建 膵胃吻合	外科78(12)1428-1431,2016年11月.	Original Article
8	平野宏文、比嘉那優大、有田和徳	脳神経外科	術中MRI -有用性の検証	脳神経外科速報.2016 Aug;26:814-819	Original Article
9	花谷亮典、丸山慎介、有田和徳	脳神経外科	小児てんかんに対する手術療法のエビデンス	脳神経外科速報.2016 Oct;26:1089-1096	Original Article
10	藤尾信吾、有田和徳	脳神経外科	脳腫瘍と成長ホルモン分泌不全症	脳神経外科速報.2016 Dec;26:1286-1292	Original Article
11	上村豪、青木雅也、中村好宏、他	呼吸器外科	カバー付きステントが奏効した食道損傷	「胸部外科」 「69・7」 「525-527」 「2016」	Others
12	徳永拓也、横枕直哉、上村 豪、他	呼吸器外科	肺過誤腫に対し核手術を施行した1例 -Chemical shift MRIの有用性について-	「日本呼吸器外科学会」 「31・4」 「76-80」 「2017」	Case report
13	佐藤雅美、佐川元保、高橋里美、他	呼吸器外科	肺がんの予防と検診:タバコ対策とCT検診を中心に	「CT検診学会誌」 「24・2」 「11-14」 「2017」	Review
14	中条哲浩、有馬豪男、平田宗嗣、他	乳腺・甲状腺外科	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術の現状と課題	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 Vol. 33(4) 210-214,2016年.	Original Article
15	神尾真樹、吉永光裕、堂地勉、他	産科、婦人科	静脈麻酔下での子宮内膜組織診の有用性に関する検討	鹿児島産科婦人科学会雑誌,平成29年3月;25巻,22-26	Original Article
16	久留敏晴、川平尚生、地村望、他	皮膚科	【天疱瘡とその周辺】(臨床例)後天性血友病を合併した腫瘍随伴性天疱瘡	皮膚病診療. 2016 Nov; 38: 1113-6	Case report
17	坂ノ上正直、金蔵拓郎	皮膚科	「アレルギーの臨床」に寄せる 難治性皮膚疾患に対する顆粒球吸着療法(GMA)	アレルギーの臨床. 2016 Dec; 36: 1376-81	Review
18	中澤祐則、川野浩輝、あべ松徳子、他	眼科	早期診断により保存的加療が可能であったリステリア性眼内炎の1例	臨床眼科70巻9号 1397-1400(2016.09)	Original Article
19	井内寛之、永野広海、地村友宏、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	下咽頭癌の病期と患者の居住地域および受診背景に関する検討	口腔・咽頭科 2017 Mar; 30: 85-90	Original Article
20	馬越瑞夫、永野広海、牧瀬高穂、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	内頸静脈並びに腕頭静脈に腫瘍塞栓を形成した腎細胞癌の甲状腺転移の1例	口腔・咽頭科 2017 Mar; 30: 79-84	Case report
21	大堀純一郎、宮下圭一、黒野祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	頭部・顔面メラノーマ皮膚悪性腫瘍における耳下腺リンパ節郭清の検討	耳鼻咽喉科臨床 2017 Jan;110:31-34	Original Article

22	黒野祐一、宮下圭一、馬越瑞夫、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	扁桃周囲膿瘍におけるガレノキサシンの組織移行性に冠する検討	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌2016 May;4: 102-106	Original Article
23	永野広海、地村友宏、原田みずえ、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	化学放射線療法後の咽頭閉塞に対して咽頭形成術をバルーン拡張術を施行した1例	口腔・咽頭科2017 Mar; 30: 73-77	Case report
24	永野広海、宮下圭一、黒野祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	中咽頭に発生したEBウイルス感染症を伴うメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患例	口腔・咽頭科2017 Mar; 30: 67-71	Case report
25	原田みずえ、大堀純一郎、黒野祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Weeklyガルボプラチン併用化学放射線療法により汎血球減少に陥った上顎洞癌例	耳鼻咽喉科臨床2016 Apr; 109:782-787	Case report
26	菅真有、丸谷佳菜子、宮脇正一	矯正歯科	舌癖と前歯部開咬を伴うハイアングル成人症例の一治験例.	九州矯正歯科学会誌.2017 Mar; 12(1): 1-8.	Case report
27	八木孝和、菅真有、宮脇正一	矯正歯科	顎関節症患者にスプリント療法と矯正治療を施した不正咬合症例.	九州矯正歯科学会誌.2017 Mar; 12(1): 9-17.	Case report
28	西村正宏	義歯補綴科	幹細胞研究の現状と将来展望	日本補綴歯科学会誌Vol. 8 (2016) No. 4 平成28年10月 p. 354-355	Others
29	岐部俊郎、西原一秀、淵上貴央、他	口腔顎顔面外科	当科における口唇裂・口蓋裂患者一次症例の30年間の臨床統計的観察	日本口腔外科学会誌63巻3号,pp.140-147,2017. 1月	Original Article
30	久米健一、野添悦郎、比地岡浩志、他	口腔顎顔面外科	下顎智歯歯根と下顎管の位置関係～下顎管に近接する智歯は増えている？～	口腔顎顔面神経機能学会会報 20巻:pp. 9-10, 2016.12月	Original Article
31	新中須真奈、平原成浩、緒方祐子、他	口腔顎顔面外科	音声視覚化システムを用いた顎変形症患者の構音パターンの評価	日本口腔外科学会誌62巻1号,pp.3-9, 2016. 1月	Original Article
32	中村典史、石畑清秀、村上寿理	口腔顎顔面外科	小児口腔外科手術の周術期管理	日本口腔外科学会誌62巻9号,pp.2-10, 2016.11月	Review
33	河村俊彦、戸上真一、福田美香、他	周産母子センター	子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘出術の導入と先進医療認定	鹿児島産科婦人科学会雑誌,平成29年3月;25巻:27-30	Original Article
34	盛真一郎、喜多芳昭、馬場研二、他	光学医療診療部	手術手技 右側結腸癌に対するmesofascial separationによる腹腔鏡下complete mesocolic excision(CME)	手術70(5),677-681,2016年4月.	Original Article
35	大戸敬之、中山歩、岩下洋一朗、他	歯科総合診療部	研修歯科医の臨床研修に対するモチベーションを変化させる要因	日本総合歯科学会、2016年7月	Original Article
36	川村英樹	医療環境安全部	MRSA保菌者対策トピックス 整形外科領域におけるMRSA保菌者対策.	日本外科感染症学会雑誌.2017 Feb; 14(1); 51-56	Others
37	高濱和弘、二川俊隆、井上和啓、他	薬剤部	鹿児島大学病院における治験薬温度管理体制の構築とその運用から見てきた課題	九州薬学会会報, 2016 Dec; 70: 55-60	Others
38	武田 泰生、池田龍二、近藤 智子	薬剤部	インクレチン関連薬のNAFLD/NASH治療への応用	Yakugaku Zasshi. 2016 Apr; 136: 573-7	Review
39	武亜希子、堤由美子	看護部	大腸癌患者の永久的ストーマ保有による喪失体験の意味探究の仕方	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌2016年12月(オンライン)	Original Article
40	武亜希子、西帯野智代	看護部	回腸ストーマ装置面板による一次刺激性接触皮膚炎を発生しCPBM系用手形成皮膚保護剤が有効であった2例	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌2016年12月(オンライン)	Case report
41	竹下かおり、平木翼、窪田 恵美、他	臨床技術部	穿刺吸引細胞診が診断に有用であった淡明細胞型腎細胞癌の骨格筋転移の1例	日本臨床細胞学会雑誌.2016年9月;55(5):340~344	Case report

小計 20

計 41件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 研究計画立案後の審査承認までの流れについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 利益相反の目的・定義、委員会の設置、指導、情報開示等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年7回
・ 研修の主な内容  第1回：統合指針から見る医学系研究の倫理：まず押さえておきたい4項目 第2回：未承認薬等へのアクセスについて～人道的見地からの治験実施制度を中心に 第3回：医療リアルワールドデータによる臨床研究の大転換 第4回：人を被験者とする研究と補償措置 第5回：交絡を攻略する 第6回：当院の治験実施状況報告(省令GCP含む)、CRCの役割(省令GCP含む) 第7回：改訂個人情報保護法による医学系研究倫理指針の改正と研究計画見直しのポイント  なお、研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会を実施した。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師として共通に求められている基礎的知識、技術、マナー等の修得を目指したいいわゆる初期臨床研修（2年間）を終了した医師は、その後も引き続き研修を行うことになるが、（各診療科により異なるが通算して概ね5～6年の研修期間）その間、各科の指導医のもと入院患者及び外来患者の診療に従事するとともに、症例検討会、抄読会並びに種々のカンファレンス等に参加することにより一層の研鑽を行うことはもとより、地域のメディカルセンターとしてより先端的な医療の開発、研究を行っているとともに、それぞれの専門的な高度の知識と技術の修得に努めている。

また、それぞれの科を標榜するための条件となる各科関連学会の定める専門医、認定医の資格取得のための指導体制も十分に整っている。

その他、日進月歩の医学の世界において医師の生涯学習の観点から、地域の病院との連携を促進し地域医療の発展に寄与することを目的とした「研修登録医」制度を設け、本院において病棟回診、症例検討会その他の研究会並びに患者の診療等に参加することを通じて、先端的な知識や技術を修得するために1年間の研修を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	198 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大石 充	心臓血管内科	部門科長	27年	
井戸 章雄	消化器内科・腎臓内科	部門科長	33年	
高嶋 博	神経内科	部門科長	27年	
石塚 賢治	血液・膠原病内科	部門科長	28年	
井上 博雅	呼吸器内科	部門科長	32年	
西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	部門科長	32年	
乾 明夫	心身医療科	部門科長	39年	
吉浦 敬	放射線科	部門科長	28年	
下堂 蘭 恵	リハビリテーション科	部門科長	28年	
金蔵 拓郎	皮膚科	部門科長	32年	
夏越 祥次	消化器外科	部門科長	36年	
井本 浩	心臓血管外科	部門科長	37年	
佐藤 雅美	呼吸器外科	部門科長	35年	
有田 和徳	脳神経外科	部門科長	37年	
中川 昌之	泌尿器科	部門科長	36年	
小宮 節郎	整形外科・リウマチ外科	部門科長	40年	
坂本 泰二	眼科	部門科長	32年	
黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	部門科長	37年	
家入 里志	小児外科	部門科長	23年	
佐野 輝	神経科精神科	部門科長	36年	
河野 嘉文	小児科	部門科長	36年	
小林 裕明	産科・婦人科	部門科長	32年	
上村 祐一	麻酔科	部門科長	37年	
宮脇 正一	矯正歯科	部門科長	29年	
山崎 要一	小児歯科	部門科長	34年	
西谷 佳浩	保存科	部門科長	21年	
野口 和行	歯周病科	部門科長	31年	
南 弘之	冠・ブリッジ科	部門科長	28年	
西村 正宏	義歯補綴科	部門科長	23年	
杉浦 剛	口腔外科	部門科長	26年	
谷本 昭英	病理部（病理診断科）	部長	29年	
垣花 泰之	集中治療部	部長	31年	
古川 良尚	輸血・細胞治療部	部長	33年	
田口 則宏	歯科総合診療部	部長	23年	
西 順一郎	感染制御部門	部門長	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
1) ・研修の主な内容 腎移植に関する研修 ・研修の期間・実施回数 年2回 ・研修の参加人数 15 2) ・研修の主な内容 泌尿器癌看護のマネージメント ・研修の期間・実施回数 年1回 ・研修の参加人数 15 3) ・研修の主な内容 鹿児島大学病院歯科インプラント研修会 ・研修の期間・実施回数 2016年4月27日～2017年3月22日・12回 ・研修の参加人数 55 4) ・研修の主な内容 HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業 ・研修の期間・実施回数 2016年9月1日～30日・1回 ・研修の参加人数 9
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
1) ・研修の主な内容 新規放射線取扱者教育訓練 ・研修の期間・実施回数 2016年4月27日～28日、6月23日～24日・2回 ・研修の参加人数 200 2) ・研修の主な内容 放射線取扱者再教育訓練 ・研修の期間・実施回数 2016年7月13日・1回 ・研修の参加人数 100

- 3) ・研修の主な内容 補綴科合同連絡会
- ・研修の期間・実施回数 2016年4月13日～2017年3月9日・11回
  - ・研修の参加人数 57

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- 1) ・研修の主な内容 鹿児島大学病院歯科インプラント研修会
- ・研修の期間・実施回数 2016年4月27日～2017年3月22日・12回
  - ・研修の参加人数 72
- 2) ・研修の主な内容 HIV感染症研修会
- ・研修の期間・実施回数 2017年1月～2月・2回
  - ・研修の参加人数 250

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 夏越祥次
管理担当者氏名	各診療センター部門科長 医療情報部長(宇都由美子) 薬剤部長(武田泰生) 看護部長(市村カツ子) 臨床技術部長(弓場裕之) 総務課長(白坂義浩) 医務課長(馬場園誠)

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	各診療センター部門科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療情報部/診療記録管理室	
		看護記録	医療情報部/診療記録管理室	
		検査所見記録	医療情報部/診療記録管理室	
		エックス線写真	医療情報部/放射線部	
		紹介状	医療情報部/診療記録管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医務課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医務課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課 薬剤部	
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医務課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医務課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医務課
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医務課

- (1) 診療に関する諸記録は、2007年以降の外来及び入院分から電子カルテにて電子媒体保存している。
- (2) 一部の診療に関する諸記録（紹介状、同意書等）については、1患者1ID番号により、外来・入院文書ホルダーで、本学で定められた保存期間に基づき、一括管理している。
- (3) 保存期間を超過した紙媒体の診療記録、諸記録は、廃棄ルールに基づき、原則廃棄している。
- (4) エックス線フィルム：2013年度からデジタル化し、フィルムレスで管理している。CT、MRI、RI、一般撮影、透視・血管造影、乳房撮影等は、デジタル画像として院内サーバーにて保存・管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医務課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床技術部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床技術部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床技術部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医務課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	総務課 医務課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医務課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	総務課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 夏越 祥次	
閲覧担当者氏名	総務課長 白坂 義浩	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要		
閲覧場所を設置しており、要求があった場合には対応ができる状況である。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 趣旨</li><li>(2) 安全管理に関する基本的考え方</li><li>(3) 組織に関する基本的事項</li><li>(4) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li><li>(5) 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>(6) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>(7) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li><li>(8) 患者等からの相談への対応に関する基本方針</li><li>(9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ul></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設置の有無 (有・無)</li><li>・ 開催状況：年12回</li><li>・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 医療の安全管理体制の確保に関する事</li><li>(2) 医療に関する安全管理指針に関する事</li><li>(3) 医療事故等の防止対策の検討及び推進に関する事</li><li>(4) 医療の安全管理のための教育及び研修に関する事</li><li>(5) その他医療の安全管理等に関する事</li></ul></li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年15回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容： (平成28年度の研修会テーマ)</li><li>1. 特別講演「神戸大学における医療安全最近の取り組み」</li><li>2. 「輸血と医療安全 -インシデントを踏まえての注意点」</li><li>3. 「人工呼吸器 ～基本的使用法と注意点～・除細動器 ～適用と操作方法」</li><li>4. 「深部褥瘡予防・治療のコツ」</li><li>5. 「医療安全・感染対策推進のために」</li><li>6. 「検査前手順、緊急連絡値 (パニック値) 及び外注検査の注意点・お願い」</li><li>7. 「麻薬の取扱い・管理について」</li><li>8. 「医療訴訟とインフォームド・コンセント」</li><li>9. 「薬物血中濃度モニタリング」</li><li>10. 「入院患者の自殺予防」</li><li>11. 「第12回CT・MRIに関する医療安全講習会」</li><li>12. 「未承認新規医薬品等を用いた医療に関する体制整備・導入プロセスについて」</li><li>13. 「医療安全対策にかかわる制度について 医療事故調査制度開始1年の動向、特定機能病院の承認要件の見直し」</li><li>14. 「RRSシンポジウム -急変を防ぐ! 全員で取り組むRRS-」</li><li>15. 「人工呼吸器管理について」、「医療ガス」</li></ul> <p>※ 研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDによる研修会及びe-Learningによる研修を別途実施した。その他に新規採用者・中途採用者向けの研修を実施した。</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- (1) 医療環境の変化に対応するため、医療安全管理マニュアルを随時改訂
- (2) 医療安全活動強化月間 (6月・11月) を設定

(注) 前年度の実績を記入すること。



(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： I 趣旨 II 院内感染対策の基本指針 III 組織体制 IV 職員の教育及び研修 V 報告に関する基本方針 VI 対応に関する基本方針 VII その他 VIII 閲覧	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 本院における院内感染対策に関する問題の原因分析、改善策を審議し、諸施策等の策定等を行う。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年10回
・ 研修の主な内容： 第1回 「医療従事者を血液・体液曝露による職業感染から守るために」 第2回 「結核」 第3回 「手指衛生」 第4回 「医療安全・感染対策推進のために」 第5回 「敗血症マネージメント ～院内感染対策と安全管理～」 第6回 「職員が感染源になるウイルス感染症」 第7回 「尿路留置カテーテルの適応と管理」 第8回 「敗血症・菌血症の診断・治療・予防」 第9回 「冬季流行疾患への対応-インフルエンザ-」 第10回 「感染性胃腸炎」  ※ 研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会及びe-Learningによる研修を別途実施している。その他に新規採用者・中途採用者・清掃業者・調理従事者向けの研修を実施した。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：  (1) 院内感染発生時に部署から感染制御部門に報告 (2) 注意すべき病原体の検出時に検査部からICTに報告 (3) 週1回検査部から病棟別主要注意菌検出状況をまとめた感染情報レポートをICTに提出 (4) 重大な感染事例の発生時は感染制御部門から病院長に報告 (5) ICTスタッフ会議、感染症対策委員会において報告 (6) リスクマネージャー連絡会議を通じて院内に周知	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無																																																				
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年12回																																																				
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="0"> <tr> <td>2016/4/5</td> <td>新規採用者ガイダンス</td> <td>41人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2016/4/5</td> <td>新規採用者ガイダンス(歯科)</td> <td>28人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2016/4/8</td> <td>研修医ガイダンス</td> <td>39人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2016/5/27</td> <td>看護部新規採用者研修会</td> <td>65人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2016/7/14</td> <td>向精神薬について</td> <td>C2看護師</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>2016/7/26</td> <td>糖尿病患者に対する薬剤師の関わりについて(他職種連携含む)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C3看護学部実習生</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2016/7/21</td> <td>医療安全・院内感染対策合同研修会</td> <td>208名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2016/8/24</td> <td>医療安全・院内感染対策合同研修会</td> <td>198名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2016/11/4</td> <td>医療安全・院内感染対策合同研修会</td> <td>135名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2017/1/5</td> <td>メサペイン錠について</td> <td>C7</td> <td>C7病棟看護師、緩和ケアチーム看護師 10人</td> </tr> <tr> <td>2017/2/1</td> <td>ベルソムラ錠について</td> <td>C7</td> <td>C7病棟看護師 8人</td> </tr> <tr> <td>2017/3/2</td> <td>薬剤の粉碎可否について</td> <td>歯科</td> <td>歯科第3示説室 9人</td> </tr> </table>		2016/4/5	新規採用者ガイダンス	41人		2016/4/5	新規採用者ガイダンス(歯科)	28人		2016/4/8	研修医ガイダンス	39人		2016/5/27	看護部新規採用者研修会	65人		2016/7/14	向精神薬について	C2看護師	9人	2016/7/26	糖尿病患者に対する薬剤師の関わりについて(他職種連携含む)				C3看護学部実習生	1人		2016/7/21	医療安全・院内感染対策合同研修会	208名		2016/8/24	医療安全・院内感染対策合同研修会	198名		2016/11/4	医療安全・院内感染対策合同研修会	135名		2017/1/5	メサペイン錠について	C7	C7病棟看護師、緩和ケアチーム看護師 10人	2017/2/1	ベルソムラ錠について	C7	C7病棟看護師 8人	2017/3/2	薬剤の粉碎可否について	歯科	歯科第3示説室 9人
2016/4/5	新規採用者ガイダンス	41人																																																			
2016/4/5	新規採用者ガイダンス(歯科)	28人																																																			
2016/4/8	研修医ガイダンス	39人																																																			
2016/5/27	看護部新規採用者研修会	65人																																																			
2016/7/14	向精神薬について	C2看護師	9人																																																		
2016/7/26	糖尿病患者に対する薬剤師の関わりについて(他職種連携含む)																																																				
	C3看護学部実習生	1人																																																			
2016/7/21	医療安全・院内感染対策合同研修会	208名																																																			
2016/8/24	医療安全・院内感染対策合同研修会	198名																																																			
2016/11/4	医療安全・院内感染対策合同研修会	135名																																																			
2017/1/5	メサペイン錠について	C7	C7病棟看護師、緩和ケアチーム看護師 10人																																																		
2017/2/1	ベルソムラ錠について	C7	C7病棟看護師 8人																																																		
2017/3/2	薬剤の粉碎可否について	歯科	歯科第3示説室 9人																																																		
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況																																																					
<p>・ 手順書の作成 (有)・無 )</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医薬品の採用について</li> <li>2 医薬品の購入について</li> <li>3 調剤室における医薬品の管理について</li> <li>4 病棟・各部門への医薬品の供給について</li> <li>5 外来患者への医薬品使用について</li> <li>6 在宅患者への医薬品使用について</li> <li>7 病棟における医薬品の管理について</li> <li>8 入院患者への医薬品使用について</li> <li>9 医薬品情報の収集・管理・提供について</li> <li>10 手術・麻酔部門について</li> <li>11 救急部門・集中治療室について</li> <li>12 輸血・細胞治療部門について</li> <li>13 生命維持管理装置領域について</li> <li>14 臨床検査部門、画像診断部門について</li> <li>15 歯科領域について</li> <li>16 他施設との連携について</li> <li>17 事故発生時の対応について</li> <li>18 教育・研修について</li> </ol>																																																					
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																																					
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品の周知状況の確認を徹底するために、現在発行しているDIニュースについては、1ヶ月の周知状況を医療安全委員会に報告し、リスクマネージャ連絡会議にて全職員への再周知を依頼し、各部署より情報確認済み署名記載用紙を回収している。</p> <p>緊急安全性情報(イエローレター)ならびに安全性速報(ブルーレター)が発出された場合には、院内通知文書や院内メール、院内イントラネット、病棟担当薬剤師による情報提供、当該医薬品を使用している患者カルテへの記載を行う等、様々な方法で情報提供を行い、情報発信時に情報確認済み署名記載用紙を回覧し、回収することとしている。ただし、平成28年度は緊急安全性情報ならびに安全性速報は発出されていない。</p>																																																					

適応外、禁忌等の処方に係る確認及び必要な指導については、適応外使用として臨床研究倫理委員会にて承認された医薬品ならびに化学療法委員会にて承認された医薬品については、該当診療科の使用ならびに該当患者への使用を確認している。一般医薬品については、これまで、適応外処方については疑義照会として実施し、また、禁忌については、電子カルテ上での警告表示ならびに疑義照会として実施し処方変更を依頼してきた。平成28年10月より、適応外、禁忌等の処方について、疑義照会として医師へ確認していた内容について、別途、その内容を記録することとした。あわせて、医薬品安全管理責任者へ報告し、医薬品安全管理責任者が必要だと判断した場合は、該当医師へ適切な指導を行うこととした。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>全医療職員を対象とした講習会(2回/年)を開催。<ol style="list-style-type: none"><li>インシデントから学ぶ人工呼吸器管理、除細動器の基礎と使用方法について</li><li>除細動器～適用と操作方法～人工呼吸器～使用上の注意点～</li></ol></li></ul></li><li>その他、特に研修が必要と定められた機器に関しては年に2回の開催を確実にしている。</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る計画の策定 (有・無)</li><li>保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>保守点検計画は主に臨床技術部の各部門で策定している。</li><li>実施方法は各部門の関連機器は、年度初めに保守点検計画策定を行い、年1回以上の保守点検を実施している。</li></ul></li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品医療機器総合機構(PMDAナビ)や日本医療機能評価機構、医療機器業者など多方面から医療機器に関する不具合情報などの情報収集を行っている。院内に該当する内容等については確認して周知を行っている。周知方法としては、院内メールによる全リスクマネージャーへ医療機器安全情報の配信または、機器管理ソフトで情報の閲覧が行えるようにしている。特に、取扱方法など具体的な情報提供が必要な部署については、訪問して助言や指導を行っている。</li></ul></li></ul> <p>参考昨年度に機器管理ソフトに提示した6件の安全性情報</p> <ol style="list-style-type: none"><li>三方活栓の開閉忘れ</li><li>電気メスによる薬剤の引火</li><li>血液浄化装置使用時の注意点</li><li>投薬ルート of 取扱</li><li>アドレナリン投与間違い</li><li>意図しない流量や濃度で薬剤を投与した事例</li></ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療に関する安全管理のための指針を平成28年10月1日一部改訂し、医療安全管理責任者に病院長補佐(安全管理担当:医科)を充て、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させることとしている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 6 名 ) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室にて情報を収集・整理し、DI ニュースとして発行している (平成 28 年度の DI ニュース発行回数: 80 回)。また、平成 28 年 10 月より、1 ヶ月の周知状況を医療安全委員会に報告し、リスクマネージャー連絡会議にて全職員への再周知を依頼し、各部署より情報確認済み署名記載用紙を回収している。</p> <p>緊急安全性情報 (イエローレター) ならびに安全性速報 (ブルーレター) が発出された場合には、情報発信時に情報確認済み署名記載用紙を回覧し、回収している。(ただし、平成 28 年度は緊急安全性情報ならびに安全性速報は発出されていない)</p> <p>医薬品・医療機器安全情報に掲載されている医薬品については、当該医薬品を投与している患者を抽出し、当該医薬品を投与している患者の主治医に対し、病棟担当薬剤師より、電子カルテにて情報提供を行い、該当患者一覧表を保存している。(平成 28 年度の医薬品・医療機器安全情報の該当医薬品の処方医への周知回数: 9 回)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>適応外使用として臨床研究倫理委員会にて承認された医薬品ならびに化学療法委員会にて承認された医薬品については、該当診療科の使用ならびに該当患者への使用を確認している。その他の医薬品については、適応外処方については疑義照会として実施し、また、禁忌については、電子カルテ上で警告表示している。警告を突破して禁忌薬が処方された場合は、疑義照会を実施し、処方変更を依頼している (警告を突破して禁忌薬が処方された場合、調剤支援システムにより、処方箋に禁忌薬が処方されている旨が出力されるため、初回出力時に疑義照会している。禁忌であることを了解して処方継続する場合、次回から処方箋に確認済みであること</p>	

が出力されるように設定している)。平成 28 年 10 月より、適応外、禁忌等の処方について、疑義照会として医師へ確認していた内容について、別途、その内容を記録し、医薬品安全管理責任者へ報告している。医薬品安全管理責任者が必要だと判断した場合は、該当医師へ適切な指導を行う。

- ・ 担当者の指名の有無 (有)・無)
- ・ 担当者の所属・職種：  
(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤部長 )

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有)・無

- ・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無 )
- ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容  
インフォームドコンセント委員会において、診療科より提出された説明書がインフォームドコンセントマニュアルの規定に沿ったものであるかの確認、審査し、不足追加部分を指摘、訂正を促す。最終版を委員会で承認し、院内共通の文書として登録している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

(有)・無

- ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：  
診療記録の記載方法は、診療記録管理委員会で作成した「診療記録記入マニュアル」に提示している。診療記録の記載内容の確認は、診療記録記入マニュアルをもとに、同委員会で作成した「診療記録監査マニュアル」に従い、診療記録を医療情報部診療情報管理部門で監査している。ピアレビューは、診療記録監査ワーキングにおいて多職種で監査している。監査結果は、病院運営会議、診療記録管理委員会、各診療科へ通知している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（ ）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（ ）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

※ 専任2名は、2名とも医師の資格を有する常勤職員であり、医療環境安全部安全管理部門に所属し安全管理業務に専ら従事しており、医療安全管理委員会の構成員である。また、医療安全管理者養成研修会において医療安全管理に必要な研修内容を受講し、全課程を修了している。

・活動の主な内容：

- (1) 医療安全を確保するための改善方策に関する事
- (2) 医療安全に係る教育・研修事業の企画及び運営に関する事
- (3) インシデントの分析に関する事
- (4) インシデントに関する診療録や看護記録等への記載状況の確認・指導に関する事
- (5) 患者や家族への説明等の対応状況の確認・指導に関する事
- (6) 医療安全管理委員会の円滑な運営に関する事
- (7) 医療安全に係る連絡調整に関する事
- (8) その他医療安全対策の推進に関する事

・医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例  
月3回の医療安全ラウンドにおいて、各部署の従事者に対して、あらかじめ医療安全に関する質問事項を決定し、回答や提示状況を確認し、モニタリングしている。モニタリング状況は、医療安全管理委員会で報告し、全部署のリスクマネージャー会議でも周知している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )
- ・活動の主な内容：

部門科等の長から申請が行われた場合に、申請内容の確認を行い、高難度新規医療技術評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、部門科等の長に対しその結果を通知する。提供にあたっては従業者の遵守状況の確認を行い、提供後も定期的に確認を行う。また、適否等の決定及び従業者の遵守状況を確認した時にその内容について病院長へ報告を行う。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )
- ・活動の主な内容： 平成 28 年度の審議事例：0 件
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )



⑨ 監査委員会の設置状況 有・無

・監査委員会の開催状況：年 回

・活動の主な内容：

平成 29 年 3 月末まで経過措置の適用により詳細は計画書を参照

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）

・委員名簿の公表の有無（有・無）

・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年175件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年52 レベル3b-4bの医師・歯科医師報告件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - A. 上記報告の状況の確認及び管理者への報告
  - B. 概要の確認、調査・分析、改善方策の立案・検討を行う

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況

平成29年3月末まで経過措置の適用により詳細は計画書を参照

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
患者相談窓口を設置し、寄せられた相談内容を把握、規則によって定められた者による医療相談室会議を開催し、対応するとともに、関係部署、安全部門へも協力を要請している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況  
新規で採用された医師、歯科医師、医療職員及び事務職員を対象に、4月に初任者研修を実施し、受講させている。中途採用の職員に対しても、毎月DVDによる研修を実施し、受講させている。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修  
の実施状況

・研修の実施状況

平成 29 年 3 月末まで経過措置の適用により詳細は計画書を参照

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要  病院概要及びホームページにおいて、法令による医療機関の承認、公費負担医療等指定状況等について公表している。  また、ホームページにおいて、各診療科等の特色を発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  救急患者及び複数疾患等においては、診療科を越えて連携して治療にあたっている。	

(様式第 8)

鹿大病総 第 539-2 号  
平成 29 年 09 月 29 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人鹿児島大学長  
前田 芳 賢

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院長会議が実施を予定している研修へ、管理職及び各責任者等を参加させる。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（2）名  
うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（2）名  
うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名  
うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

現時点では、専従医師の確保が困難であるため、安全部門長及び副部門長による兼任医師 2 名体制で安全部門での業務を行うが、平成 30 年 4 月から、安全部門長が専従医師として業務を行う。

